

オプション (9)  
(赤 色)

通番 No.	Item No.	品 名	数 量
49	1	縫合糸 (プロプリン糸、両端針付き) 番手5-0 (36包)	1 ケース
	2	同上 番手6-0 (36包)	1 ケース
	3	吸収糸 (両端針付き) バイクリル サイズ 30	1 ケース
	4	吸収糸 (片針付き) サイズ 20	1 ケース
	5	ヘガールダイヤモンド状持針器 6インチ	2

オプション (11)  
(黄 色)

通番 No.	Item No.	品 名	数 量
50		食料品 カレー ライス	110 50
51		食料品 ライス 味噌汁 (4袋×20)	90 4
52		食料品 ラーメン	84
53		食料品 カレー ライス	90 60
54		食料品 粉末しょうゆ (12袋×30パック) 梅干し 日本茶パック (回分) 缶詰 コーヒースティック	1 5 180 50 3
55		ホカロン 携帯用蚊取り線香 同上用薬 (30枚/缶)	240 12 26
56		リンスキン	20
57		発電機 (220V、50HZ)	1
58		発電機 (220V、50HZ)	1

1. 医薬品

用途	対応品目	数量	金額
総合感冒薬	PL顆粒 (1g×1000)	8	59,200円
消炎鎮痛剤	ブルフェン錠 (1000T)	14	133,000円
大人用せき止め	フスコデ錠 (1200T)	16	68,800円
かゆみ止め軟膏	オイラックス軟膏 (500g)	7	15,785円
抗ヒスタミン剤	トリルダン (100T)	40	768,800円
抗ヒスタミン軟膏	ヒタミン軟膏 (250g)	4	24,600円
腹部鎮痛剤	ブスコパン錠 (1000T)	20	210,000円
冷湿布	バックス ミナックス (12kg)	1	15,792円
消炎鎮痛軟膏	メサデルム軟膏 (5g×10)	200	850,000円
解熱鎮痛シロップ	ボカールシロップ (500ml)	3	11,100円
小児用抗生物質	ピクソフ・ドライシロップ (1g×500)	80	872,000円
虫下し	コンバントリン錠 (100T)	100	601,000円
解熱剤(坐薬)	アンヒバ坐薬 (100/100g)	40	154,800円
下痢止め	ロベミン (500cap)	8	347,600円
下痢止め(小児用)	ロベミン小児用 (100g)	50	433,000円
総合ビタミン剤	ボボンS (2100g)	4	42,000円
消炎軟膏	ジクロード点眼 (5ml×10)	200	1,738,000円
軟膏壺	軟膏壺	10000	100,000円
		合計	6,445,477円

イラン流入イラク避難民救済緊急援助隊 携行医薬品リスト

I. 経口薬品 (Oral use)

1. 抗生物質 Antibiotics

ピクシリン	Ampicillin Cap. 250mg/Cap. Ampicillin Dry syrup
クロロマイセチン	Chloramphenicol Tab. 250mg/tab.
アクロマイシンV	Tetracycline Cap. 250mg/Cap.
バクタ	Co-trimoxazole 480mg/Tab. (Sulphamethoxazole+Trimethoprim 400mg+80mg)
ケフリン	Cefalocin Sodium Dry syrup
L-ケフレックス	Cefalexine Granule 1g/pkt.
ペニシリンK	Phenoxymethyl penicillin 200,000IU/Tab.
フラジール	Metronidazole Tab. 250mg/Tab.

2. 解熱・鎮痛薬 Antipyretics and Analgetics

アスピリン	Aspirin (Acetylsalicylic acid) Tab. 500mg/Tab.
バファリン	Buffered Aspirin 330mg/Tab.
ポンタールシロップ	Mefenamic acid Syrup 3.25%

3. 胃散中和剤 Antacids

新三共胃腸薬	Gastro-enteric compound medicine (Peptic and Antacid)
--------	--

4. 抗潰瘍剤 Antiulcers

アルサルミン	Sucralfate Granule 1g/pkt.
--------	----------------------------

5. 鎮痙薬 Antispasmodics

ブスコパン	Butylscoporamin Tab. 10mg/Tab.
-------	--------------------------------

6. 抗てんかん薬 Antiepileptics

フェノバルビタール Phenobarbitone Tab. 30mg/Tab.

7. 気管支拡張薬 Bronchodilator

ネオフィリン Aminophyllin Tab. 100mg/Tab.

8. 鎮咳薬 Cough remedy

フスコデ Chlophedrin S  
(dihydrocodeine phosphate 3mg, dl-methylephedrine  
hydrochloride 7mg, chlorpheniramine maleate 1.5mg)

9. 抗不安薬 Minor tranquilizer

セルシン Diazepam Tab. 2mg/Tab. and 5mg/Tab.

ベンザリン Nitrazepam Tab. 5mg/Tab.

11. 駆虫剤 Anthelmintic

コンバントリン Pyrantel pamoate Tab. (Combantrin) 100mg/Tab.

バーモックス Mebendazole Tab. 100mg/Tab.

12. 消炎・鎮痛剤 Antiinflammatics and Analgetics

ブルフェン Ibuprofen Tab. 200mg/Tab.

13. 抗ヒスタミン剤 Antihistamines

ピレチア Promethazine Tab. 25mg/Tab.

タベジール Clemastine fumarate Tab. 1mg/Tab.

トリルダン

14. 副腎皮質ホルモン Corticosteroids

プレドニゾロン Prednisolone Tab. 5mg/Tab.

15. ビタミン剤とミネラル Vitamines and Minerals

総合ビタミン剤	Multivitamine Granule
レチノール	Retinol (Vit.A) Tab. 10,000IU/Tab.
アスコルビン酸	Ascorbic acid Tab. 200mg/Tab.
硫酸第一鉄	Ferrous sulfate 525mg/Tab.

16. 下剤 Laxatives

ラキソナリン	Bisoxatin acetate Tab. 60mg/Tab.
--------	----------------------------------

17. 止瀉薬 Antidiarrhoeal drugs

ロペミン	Loperamide hydrochloride Cap. 2mg/Cap. Loperamide hydrochloride Granule
------	--

18. その他 Others

· Medicine for cold

PL顆粒	PL Granule 1g/pkt. (Salicylamide 270mg, Acetaminophen 150mg, Caffeine 60mg, Promethan-dimethylen-disalicylate 13.5mg)
------	---

· Medicine for circulatory system

アダラート	Nifedipine Cap. 10mg/Cap.
アルドメット	Methyl-dopa Tab. 250mg/Tab.

· Oral Rehydration Salt

経口補液	Oral Rehydration Salt (one sachet for one litter)
------	---

· Others

ファンシダール	Sulfadoxine + Pyrimethamine Tab. (500mg+25mg/Tab.)
プロベネシド	Probenecid Tab. 250mg/Tab.

## II. 注射薬 (Parenteral Use)

### 1. 麻酔薬 Anaesthetics

キシロカイン筋注	Lidocaine Hydrochloride (I.M.) 1%
ケタラール 50	Ketamine Hydrochloride 50 (I.M.) 500mg/10ml/V
ケタラール 10	Ketamine Hydrochloride 10 (I.V.) 200mg/20ml/V
イソゾール	Thiamylal Sodium 0.5g/A
ペルカミンS	Dibucaine Hydrochloride 9mg/A

### 2. 抗不安薬 Minor Tranquilizer

セルシン注	Diazepam Inj. 10mg/A
クロルプロマジン注	Chlorpromazine Inj. 25mg/5ml/A

### 3. 抗生物質 Antibiotics

ピクシリン注	Ampicillin Inj. 250mg/V, 1g/V
ケフリン注	Cefalocin Sodium Inj. 1g/V
クロマイサクシネート注	Chloramphenicol Inj. 1g/V
ストレプトマイシン注	Streptomycin Sulfate Inj. 1g/V

### 4. 補液、糖および電解質 Fluids, Glucose and Electrolytes

メイロン注	Sodium Bicarbonate Inj. 7% 50ml/A
生理食塩水	Isotonic Sodium Chloride Inj. 0.9% 20ml/A
リンゲル液	Compound Solution of Sodium Lactate Sol. (Ringer's Lactate)
ブドウ糖	Glucose Inj. 5% 20ml/A
	Glucose Inj. 5% 500ml
	Glucose Inj. 50% 20ml/A

### 5. 交感神経作用薬 Sympathomimetics

ボスミン注	Adrenaline Inj. 1 in 1000 1ml/A
-------	---------------------------------

6. 鎮痙薬 Antispasmodics

硫酸アトロピン注 Atropine Sulphate Inj. 0.5mg/ml/A

ブスコパン注 Butylscoporamin Bromide Inj.

7. 抗てんかん薬 Antiepileptics

フェノバルビタール注 Phenobarbitone Inj. 10% 1ml/A

8. 解熱・鎮痛薬 Antipyretics and Analgetics

メチロン注 Sulpyrine Inj. 25% 1ml/A

ペンタジン注 Pentazocine Inj. 30mg/ml/A

9. 強心配糖体 Cardiac glycosides

セジラニド注 Lanatoside C Inj. 2ml/A

10. 気管支拡張薬 Bronchodilator

ネオフィリン注 Aminophyllin Inj. 250mg/10ml/A

11. 利尿剤 Diuretics

ラシックス注 Frusemide Inj. 1% 2ml/A

マンニトール注 D-Mannitol Sol. 20% 500ml

12. その他 Others

・ Medicine for Circulatory System

カルニゲン注 Carnigen Inj. 2ml/A

・ Drug used in Nausea

プリンペラン注 Metoclopramide Inj.

・ Corticosteroids

デカドロン注 Dexamethasone Inj. 5mg/ml/A



・ Water for Injection

注射用蒸留水 Water for Injection 10ml/A

Water for Injection 20ml/V

III. 局所用薬品 (Topical Use)

1. 消毒薬 Disinfectant

イソジン液 Povidone iodine Sol. 10%

イソプロピルアルコール Isopropyl-alcohol

エチルアルコール Ethyl-alcohol

リンスキンL Wet Towel with Hibitane sol.

ヒビテン液 Chlorhexidine Gluconate (Hibitane) Sol. 5%

オキシフル Hydrogen Peroxide (Oxydol) 2.5~3%

ハイアミン液 Benzethonium Chloride Sol. 10%

クレゾール液 Cresol Sol.

2. 鎮痒軟膏 Anti-irritant (Soothing Oint.)

オイラックス軟膏 Crotamiton Oint.

レスタミン・コーチゾン軟膏 Restamine Cortisone Oint.

(Diphenhydramine hydrochloride and Hydrocortisone acetate)

3. 冷湿布 Cold Compress

パテックス Cold Compress

4. 消炎剤および抗生物質軟膏 Anti-inflammatory and Antibiotics

メサデルム軟膏 Dexamethasone Propionate Oint. 0.1%

テラコートリル軟膏 Terra-cortril Oint.

(Oxytetracycline + Hydrocortisone)

リンデロンVG軟膏 Rinderon VG Oint.

5. 局所麻酔剤 Local Anaesthetics

キシロカインゼリー Lidocaine Hydrochloride Jelly 2%

キシロカインスプレー Lidocaine Hydrochloride Spray 8%

6. 眼科用剤 Ophthalmic Use

クロラムフェニコール点眼液 Chloramphenicol Eye drop

テトラサイクリン眼軟膏 Tetracycline Eye ointment

ジクロード点眼液 Dichrode Eye drop (Anti-inflammatory)

7. その他 Others

白色ワセリン White Paraffin (White Petrolatum)

IV. その他 Others

· Nystatin Oral Drop (for use of the mouth)

· Multi-stix

· Tetanus toxoid

· Indomethacin supp. 50mg

· Paracetamol supp. 100mg

· Gentian Violet Powder

· Plaster with gauze (Size Medium and Large)

· Anti-insect Spray (not insecticide)

## (5) トルコ流入避難民



派遣の経緯および概要

90年8月2日イラクのクウェイト侵攻に端を発した湾岸危機は91年1月17日より湾岸戦争に突入し、2月24日の地上戦開始以後2月28日にこの湾岸戦争は終結するに至った。しかしこの湾岸戦争により、イラク北部山岳地帯を越えてクルド人を主とする多数の避難民が、イラク国境を越えイラン国内のみならずトルコ国内東部山岳地域に流入した。4月に入るとイラク避難民の数は急激に増大し、一時はその数約45万人に達し、越境の際の寒さと餓えのために女性・子供を含む多数の人々がイラク国境付近で死亡した。また、衛生状態の悪化に伴い、コレラ・アメーバ赤痢なども発生し、予防措置が講じられなければ伝染病が広まる恐れがあるとの報告もなされた。

我が国としては、トルコにおけるクルド人を中心とする流入避難民の被災状況の深刻さに鑑み、人道的見地より物資の供与、ならびに感染症の専門家を含む医療チーム派遣を行うこととした。

1	国名	トルコ共和国
2	災害区分	流入避難民
3	災害発生時期	1991年4月～
4	災害の規模	流入避難民 約 45万人
5	派遣区分	医療チーム、業務調整
6	派遣の目的	①負傷者に対する医療活動 ②被災状況調査 ③医療事情調査 ④医薬品などの供与 ⑤感染症（コレラ等）の実態調査
7	派遣期間	1) 物資供与（供与時期1991年4月） 2) 医療チーム（5/9 ～ 5/29）
8	チームの構成	医療チーム： 医師（3）、看護婦（3）、調整員（2）
9	受入期間	トルコ赤新月社
10	活動の場所	ウシュクヴェレン
11	活動の内容	援助物資の供与・・・テント、シート、簡易水槽、 毛布 医療チーム・・・負傷者に対する医療活動、 被害状況調査、感染症の調査
12	携行機材	医薬品、医療資材、テント、毛布

援助内容

物資供与:

供与時期: 1991年4月

供与物資: 毛布(普通用、寒冷地用)、簡易水槽(7,500ℓ、3,500ℓ)  
ファミリーテント(普通用、寒冷地用)、  
グループテント(15人用、12人用)

医療チーム:

派遣メンバー: 団長(1)、医師(2)、看護婦/士(3)、  
業務調整員(2)

派遣期間: 5月9日 ~ 5月29日  
(今川医師は5月11日より派遣)

	氏名	所属先	指導科目
団長	中村 安秀	外務省 経済協力局 技術協力課	総括 救急医療
副団長	今川 八束	麻布大学 環境保健部	救急医療
団員	大山 卓昭	金沢大学 医学部	救急医療
	佐々木 忠一	JMTDR登録看護師	救急看護
	曾我部るみ子	東京警察病院	救急看護
	西川 富己子	東京都立府中療育センター	救急看護
	竹森 英治	国際航業	業務調整
	斉藤 徹	国際協力事業団 八王子国際研修センター	業務調整

J M T D R イ ラ ク 避 難 民 救 済

ト ル コ 派 遣 チ ー ム 報 告 書

1 9 9 1 年 5 月

団 長：中村安秀（外務省技術協力課）

業務調整員：斎藤徹（JICA八王子国際研修センター）

1. イェクマールからの新しい風
2. 背景
3. イェクマールキャンプの状況
  - 1) 地勢
  - 2) 難民キャンプの推移
  - 3) 各国の援助状況
  - 4) 保健衛生の状態
4. JMTDRの医療活動
  - 1) 日本トルコ共同医療テントにおける診療
  - 2) キャンプ全体の保健医療の推進
  - 3) 各国チームとのコーディネート活動
5. テント生活状況
6. 緊急医療援助の転換期
7. トルコにおける経験と今後の方向性
  - 1) 大量高速のロジスティック
  - 2) 環境衛生を含む総合的な「医療」チーム
8. JMTDRの改善点
9. おわりに
10. 資料
  - 1) 国際緊急援助隊医療チーム・日程
  - 2) 地図・・・トルコ南東部  
イェクマール・キャンプ図  
テント実際図
  - 3) 要人リスト
  - 4) キャンプ診療活動・総計表
  - 5) キャンプ日誌
  - 6) 防水ウェア
  - 7) 診療記録(案)

(Statistics OF JMTDR Activities)



## 1. イェクマールからの新しい風

トルコ政府の要請を受け、5月9日から5月29日までの21日間にわたり国際緊急援助隊医療チームがイラク避難民救済のために派遣された。5月14日にトルコ・イラク国境のイェクマール・キャンプに到着し、精力的な医療活動を行ない、国連機関や各国チームからhigh-qualifiedという評価を受けた。また、世界中でも前例をみないスムーズな大量帰還プログラムの遂行に保健医療の面から十分な貢献を行った。避難民数が2,200人に減少した5月22日、イェクマール・キャンプを引き揚げ、トルコ保健省、UNHCR等に報告を済ませた後、5月29日帰国した。

イェクマール・キャンプにおいては、従来の難民救済という枠を越えた新しい発想による大規模な保健医療活動が展開されていた。イェクマールで我々が体験したことは1990年代の緊急援助の新しい方向性を示唆しているので、ここにその特徴を列記する。

## 2. 背景

1991年4月上旬、70万人近くのイラク避難民が国境を越えトルコ領内に流入したため、トルコ政府の要請を受け、感染症対策・小児診療を中心とする国際緊急援助隊医療チーム(JMTDR)が派遣された。

イラク避難民はイラク北部の険しい山岳地帯を徒歩で逃れてきた者が多く、飢え寒さ、疲労、水不足により、下痢や肺炎などの感染症や栄養失調をきたしており、避難民に対する医療ニーズは非常に高いものがあった。

4月中旬にトルコ内で活動を始めたドイツ赤十字チームをはじめ、欧米のNGOは4月下旬ごろから本格的な医療救援活動を開始していた。また、JMTDRが日本を出発した頃から、ザホ(イラク)にイラク避難民を帰還させる作戦が大規模に実施され、トルコ国内避難民の数は急激に減少しつつあった。

イラク避難民の状況が非常に流動的であったために、トルコ政府側からの要請は当初のチクルジャからウシュクベレンに変更され、最終的にイェクマールに決定されたのは我々がトルコに到着してから4日目にあたる5月13日の夕刻であった。JMTDRチームは5月14日午後イェクマールに到着し、15日朝から医療活動を開始した。

今回は活動場所がシルナック県イエクマールに決定されるまでに候補地が二転三転したが、結果的にはトルコ政府の選択は非常に賢明であった。大量の難民帰還という難しい時期において、JMTDRチームの貢献が可能だったのは、難民がちょうど帰還始めたばかりのイエクマール・キャンプという立地条件に負うところが大きかった。これが他のキャンプならば、難民がほとんど帰った後に活動を開始するという苦しい状況に陥った可能性もあった。難民緊急医療に関しては、難民は日々流動するものであるから、今回のように現地に入ってから活動地区が変更されることをあらかじめ予期しておく必要がある。

### 3. イエクマール・キャンプの状況

#### (1) 地勢

イエクマール(Yekmal)はトルコ東南部のシルナック県にあり、県庁のシルナックから車で2時間半、最も近い町であるウルデレからも1時間以上かかるというトルコ・イラク国境の辺境にある。標高約1,000m、5月になっても近傍の山々には残雪が見られ、夜間の冷え込みはことに厳しい。

イエクマール・キャンプの中央を横切る小川が国境線となっており、川岸から山の中腹に至るトルコ側、イラク側に避難キャンプは散在していた。

#### (2) 難民キャンプの推移

- A) 混沌気・・・4月4-5日ごろ、ドホック周辺に住むイラク避難民は山岳地帯を200km歩いた末に、パニック的な状況下でイエクマールに大量に流入した。大量流入の直後は、疲労、寒さ、食料と水の不足から子供や病弱者の死亡率は高く、また、米軍のヘリコプターから投下された援助物資により9人が圧死するなど極めて悲惨な状況であった。
- B) 基盤整備期・・・4月中旬よりドイツ赤十字、UNHCR、米軍などがキャンプで活動を開始し、4月下旬頃には食料やテントの配給、安全な水供給、保健医療サービスの充実などが速やかに確立されていった。
- C) 帰還期・・・5月10日前後より、大量のバスとトラックを使って避難民をザホハピストン輸送するプログラムが始まり最も多い時で8万人といわれたキャンプ人口も急激に減少していった。我々がキャンプ入りした5月14日に4万8千人だった人口は、我々が帰る5月22日には2千2百人に減っており、5月24日イエクマール・キャンプは完全に閉鎖された。

### (3) 各国の援助状況

イエクマール・キャンプ内では、UNHCR、米軍、ドイツ赤十字チームを中心に各国チームが非常に協力的にイラク避難民に対する総合的な援助活動を展開していた。しかし、残念ながら、トルコ保健省はキャンプ内では全くといっていいほど無力であった。

- ・ UNHCR ・ 4月16日現地入り。キャンプ内のすべての管理（テント、食糧配給水供給、保健衛生など）と帰還プログラムに関する調整役を担っていた。
- ・ 米軍 ・ ドイツ駐在のグリーン・ベレーが主力。65名を投入し、キャンプ避難民の治安維持、イラクへの帰還、物資の輸送などを担当していた。
- ・ ドイツ赤十字 ・ 医師16名、スタッフ80名を擁する大所帯。100床規模の病院を運営し、内科、小児科、外科、整形外科、麻酔科、産科、歯科を揃え、X線機器や手術室を完備し、ドイツの小さな病院をそのままイエクマールに運んできたという内容であった。病院と同時に、簡易濾過装置を備えた浄水施設を造り難民キャンプに安全な水道水を供給していた。活動終了後は、テント80張を含めすべての機材をトルコ赤新月社に寄贈。
- ・ カナダ赤十字 ・ 医師1名、スタッフ16名。3週間の活動後5月16日に帰国。  
機材の運搬はすべてカナダ陸軍が実施した。
- ・ フランスボランティアチーム ・ Medicine Du Monde (MDM) と A I C F (アクション) の2チームともに外来や小規模の入院施設を運営していた。5月22日MDMはフランス陸軍の支援によりザホに移動。
- ・ アイルランドボランティアチーム ・ Concern チームは外来診療の他に、乳幼児の栄養指導などの母子保健活動に力を注いでいた。
- ・ UNICEF ・ ドイツ赤十字、米軍と協力して、6ヶ月から5才までの乳幼児7,500人に対して麻疹の予防接種を実施した。

### (4) 保健衛生の状態

イエクマール・キャンプにおいては、早くから水供給と食料配布が確立され、キャンプ内にトイレも多数設置されていた。栄養と環境衛生が速やかに整備されたために、心配されたコレラ、腸チフス、流行性髄膜炎など重篤感染症の流行は認められなかった。

避難民が大量に流入した混沌期には、栄養失調、下痢症の子供が多く見られ、地雷による負傷者もいた。しかし、我々が診療を開始した頃には下痢患者も激減しており、肺炎をきたすほどの呼吸器疾患も少なくなっていた。全体を通じて、感染症対策と小児に対する保健医療が中心的課題であった。

#### 4. JMTDRの医療活動

我々の医療活動は、トルコ保健省との共同テントにおける診療活動、キャンプ全体の保健医療の推進、各国チームとのコーディネート活動の三つに大別できる。これらの活動を統合することによって、時期的にも遅れてキャンプに入ったJMTDRチームではあったが、各国チームからもクルド人からも高い賞賛を得ることができた。

##### (1) 日本トルコ共同医療テントにおける診療

5月15日よりイエクマール・キャンプの西方に位置する保健省とJMTDRテントを利用して、診療活動を開始した。はじめの2日間はトルコ保健省チーム（医師1名を含む3-4人のメンバー）が訪れ、JMTDRチームと共同で診療を行った。しかし、保健省チームはトルコ各地から寄せ集められた混成部隊であり日毎に顔ぶれが異なり、キャンプ状況の把握や引継ぎもなく、薬品や機材の管理も全く行われていなかった。5月17日以降は、我々には何の連絡もないままに保健省チームが来なくなり、日本チーム単独で一切の診療活動を行った（シルナック保健センター長も、我々が指摘するまでこの事実を知らなかった）。

診療時間は午前と午後に分かれ、少なくとも医師1名、看護婦2名で診察にあたることを原則とした。トルコ語-日本語の通訳（上原氏）の他に、クルド難民のなかからクルド語-英語の通訳を探しボランティアとして手伝ってもらったが、勝手に休むことが多く通訳には苦勞した。

実際の診療期間は5月15日から21日までの7日間。総計284名の患者に対し、診察および投薬、指導を実施した。年齢構成を見ると、15才以上の大人が190名（67%）と多数を占め、5才未満の乳幼児は44名（15%）と少なかった。疾病名では、下痢症36名（13%）、急性呼吸器疾患33名（12%）、皮膚感染症28名（10%）が多かったが、特に成人において、頭痛、筋肉痛、胃部不快感などの不定愁訴を訴える患者が目立った。災害後に生じる一種の心身症と考えられ、キャンプではYekmal症候群と呼称されていた。

##### (2) キャンプ全体の保健医療の推進

イエクマールではHealth Coordinating Meetingが開かれ、我々も毎日参加した（団長だけでなく、日本チームの全員が一度は出席した）。ドイツ赤十字、UNHCR米軍など主要メンバーが集い、キャンプ全体の保健医療の現状を総括していた。日本チームは、麻疹の予防接種後の実態調査にUNICEFとともに参加したり、安全な水に関する健康教育を推進する等、イエクマール・キャンプ全体の保健医療向上を目指した活動に積極的に関与していった。

### (3) 各国チームとのコーディネート活動

イエクマール・キャンプはトルコの中では、各国チームの協力体制が最もよく整備された所だと言われている。診療活動の面で各国チーム間での患者のやりとりが非常にスムーズに行われており、生活面においても、お互いに助け合って暮らしていた。

我々も保健医療における協力だけでなく、毎日のように他国チームの訪問を受け、日曜日に日本チーム主催のパーティーを開いたところ、イエクマール・キャンプ始まって以来という百名にもものぼる各国チームからの参加者が集まった。

このように、欧米系を中心とする援助機関コミュニティの中に、日本チームもアジア代表という形でその存在を十分に知らしめたと言える。

## 5. テント生活状況

JMTDRメンバー全員と通訳の上原氏、それに運転手2名の計11名は、5月14日から5月22日までの8泊9日間にわたり共同テント生活を送った。当初はリエゾン事務所を設置する方針であったが、イエクマールから最も近いホテルまで片道4時間、しかも難民を乗せた大型トラックが頻繁に通行するという事情を考慮し、全員でキャンプ内に宿泊することにした。

テントの場所はUNHCRの協力によりキャンプ内の一等地を確保することができ、テントの設営に関しては米軍兵士とクルド難民の協力を得た。トイレ、シャワー室（といってもバケツで水をかぶるだけ）を造り、スウェーデンチームから20トンの水タンクの提供を受けた。

食事は3食とも自炊。日本から携行した食料品の多くは単一のインスタント食品であったので、毎日の献立には非常に工夫が必要であった。ドイツ赤十字チームがハム・ソーセージなどを大量に冷蔵庫に確保していたのと対照的であった。

テント生活で生じるゴミの処理に関しては、最初ビニール袋にまとめてテントの外に置いていたところ、難民の子供たちが黙って持ち去り中身をあさっていたことがあった。それ以後ゴミは毎日自分たちの手で完全に焼却することにしたが、難民の生活の場に近接したところでは廃棄物の処理に細心の注意を払う必要性を痛感した。

共同テント生活の最大の問題はプライバシーが無くなることであろう。女性隊員2名のベッドは一応カーテンで仕切っただけ。しかし、1つのテントで9人が寝泊まりするという厳しい状況下で、大きなトラブルもなく、全員食欲旺盛、下痢はもちろん風邪ひとつ引くことなく心身ともに健康で暮らせたことは特筆に値する

テントの撤収作業は、最終日の朝7時から始め、10時にはほとんど作業が終了していた。クルド難民も十数人手伝ってくれたが、撤収作業に関しては段取りとチームワークの良さが目立った。

テント生活の間、夜間テントの外に置いていた小物が盗まれた以外には、とくに安全面で不安を感じる出来事はなかった。しかし、我々が出立する直前にトルコ人とクルド人の間でライフル銃を持った抗争があった。

## 6. 緊急医療援助の転換期

1979年から81年にかけては、カンボディア難民、アフガン難民、エチオピア・スーダン難民などが大量に勃発し、難民援助にとって記念碑的な時期であるといわれている。それから約10年。ソ連・東欧の改革、近づくEC統合、イラクに対する多国籍軍の勝利などの政治情勢をうけて、難民緊急援助の現場ではいま大胆な変動が沸き起こっていた。

トルコにおけるイラク避難民援助で際立った特長は以下の通り。

- ①欧米先進国に第三国難民定住の余地がないことから、その代替案として、第1次庇護国（この場合トルコ）における難民救済を完璧に実施する必要があった（ドイツ赤十字チームは4月の段階で9月までの半年間の詳細な派遣スケジュールを決定していた）。
- ②大量高速のロジスティックを確保するために、各国とも軍のプレゼンスが目立った。
- ③医師と看護婦が薬と聴診器をもって駆けつけるという、従来の人道的なボランティア精神の影が薄くなり、欧州の赤十字やNGOは揃って「ブルーに12の星のEC旗」をつけて活動するといったように、国威発揚場の場として緊急援助の政治性が高まった。

## 7. トルコにおける経験と今後の方向性

### (1) 大量高速のロジスティック

#### A) 物資と人の輸送

軍用ヘリコプターと軍用大型トラックが主役。ドイツとカナダの赤十字は全面的に軍のロジスティック支援を受けており、フランスのボランティアチーム (Medicin Du Monde) もフランス軍の支援で機材をイラク北部に搬送。

## B) . 緊急患者や医薬品の搬送

緊急患者は原則としてヘリコプターを使用して、バットマン空軍基地までヘリで搬送後ディアルバクルの病院に収容されていた。ドイツ赤十字はトルコ国内で医薬品を継続的に調達しヘリで搬送。

## C) . 即時的な通信体制

ドイツ赤十字はキャンプ内からコンピューター通信で本国と連絡し、キャンプ内ではハンドトーカーにより各部署同士の更新を行う体制。UNHCRは大型無線機をジープに取り付け、ディアルバクル連絡事務所と定時交信。

## D) . 軍のプレゼンス

イエクマールで各国の軍が果たした役割を整理する。

・治安維持 ・米軍が担当。トルコ軍、クルドゲリラの抗争などを調停。

在ドイツのグリーンベレーが難民キャンプ住民を組織化。

・チーム移動のロジスティック ・各国軍が各々の国のチームの移動を担当。

・キャンプ内のロジスティック ・緊急患者の搬送、援助物資の輸送、ヘリによる食料配布はUNHCRの協力下で米軍とドイツ軍のヘリが担当。

・医療衛生活動 ・カナダ赤十字は陸軍衛生部隊が中心になり活躍。

・難民帰還 ・米軍が安全確保の上、借上のバストラックで実施。

全体的にみて、軍はロジスティックの主要部分を担っていたが、現場での指揮やヘリやトラックの運転以外の単純労務は現地のクルド難民の役割であった。

## E) . 今後の方向

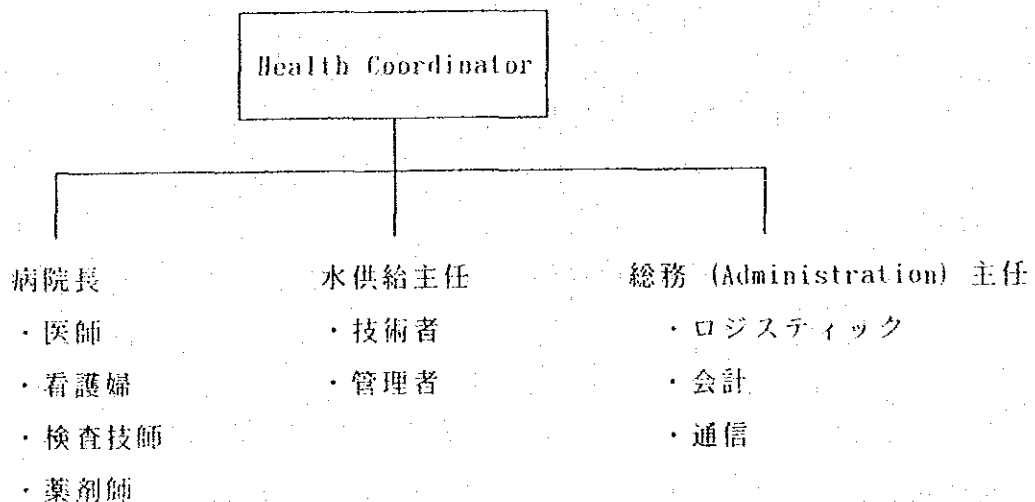
- ①バングラデシュ救援活動で活躍したようなヘリコプターと衛星通信装置は今後の緊急援助隊活動に必要不可欠のものとなるであろう。
- ②救援活動範囲が広い場合は大型無線機やハンドトーカーも必要であろう。
- ③現地までのアクセスについては、自前の救援機とヘリを乗り継いでいくのが迅速で効果的であるが、この点においては軍関係の機動力が最も有用であろう。
- ④しかし、難民救済の現地活動は諜報活動などの経験に富んだ軍でなければむづかしいと思われる（例えば、ドイツ軍は活動をロジに限定していた）。
- ⑤今回の活動地域は山岳地帯であったので、いわゆる災害救助専用船などの必要性は感じなかった。

## (2) 環境衛生を含む総合的な「医療」チーム

### A) . ドイツ赤十字の体制

トルコにおいてドイツ赤十字は大規模な布陣を張り総勢 300名のうちイェクマルには90名が派遣されていた。ドイツチームの特長の一つは、簡易浄水プラントを本国から直接搬送していたことであった。キャンプ中央を流れる小川を水源とし、2 m<sup>3</sup>/秒浄水処理可能な濾過装置と2 Kmの地上配管を備え、ドイツチーム病院に対する水の確保だけでなく、簡易給水場を設け難民キャンプに安全な水を供給していた。もう一つの特長は、ドイツ国内と同じ発想で病院体制を確率していたことである。外来と入院病棟に分かれ、内科、小児科、外科、整形外科、麻酔科、産科、歯科の専門家を揃え、手術室、X線検査室、臨床検査室、隔離病棟、薬局、医療資材倉庫を確保していた。

純粹の医療部門を担当する病院長とは別に、水やロジのチームを含めた全体の責任者はHealth Coordinatorと呼ばれ、医師がその責任を担っていた。単に自国チームの運営を管理するだけでなく、キャンプ内のHealth Coordinating Meeting の議長を努め、キャンプ難民全体の医療と健康の向上をめざす視点で行動していた。



ドイツ赤十字医療チームの構成図概略

### B) . 今後の方向

#### ① 水供給施設隊の必要性

安全な水を確保することは、下痢、コレラ等の感染症の予防、医療器具や施設の消毒と清潔保持、隊員の健康維持等の観点から、難民や災害救済時の医療活動にとって必須のものである。地域や状況により、水供給の具体的な方法は大いに異なるが、次のようなモデル案が考えられる。



浅井戸掘削・・地表水槽(20-40m)より烏水。資機材運搬、掘削、設置を含んだ井戸設置期間は5-6日間。揚水量が20-30L/分あれば、300-600人に供給可能概算費用は機材のみで300万円ぐらい。

この施設隊の要員としては、JICAに登録しているコンサルタント会社から途上国での業務経験のある者を派遣するのが適当と思われる。

## ②下水・ゴミ処理活動

難民や洪水被災の際には、キャンプ内の衛生状態の劣悪さが感染症の発生の大きな要因になっている。

下水処理はコレラ、赤痢など消化管感染症の原因対策として重要であり、ゴミ対策はハエなどの媒介性昆虫対策としても重要である。また、最近では環境保護の見地からも、医療活動に伴う医薬品廃棄物や注射針の処理に最新の注意を払う必要がある。

- ・トイレ設置・・浅い塹壕の上を簡易便器で覆った簡易トイレを100人当たり最低1ヶ所設置する(WHO基準では深さ90-150cm、幅30cm、長さ3m)。
- ・簡易下水濾過装置・・上述のトイレ排泄物をバキュームカー方式で収集し、濾過・簡易曝気などを備えた簡易下水濾過装置を設置する。
- ・簡易ゴミ処理場・・医薬品や注射針などの危険物、カン・ビンなど不燃物、一般ゴミに分別して処理する。

下水・ゴミ処理については、いまだ各国とも焼却か地中に埋めるといった従来の方法を踏襲しているだけである。この面で日本が積極的に関与すれば、感染症予防につながるだけでなく、環境保護という点でも貢献度は大きい。また、キャンプの臭気がなくなり、美観にもつながることから、アピール度も大きいと思われる。

## ③診療体制について

医師・看護婦の応募が困難な現状では、チーム規模の大幅な拡大はむづかしいしかし、現在の医師3名、看護婦6名、調整員3名の12人体制においても、薬剤師1名、検査技師1名は最低必要であろう。ハイテク日本からの医療チームは相手国からも他国チームからも高度な技術の提供を期待されているわけで、規模の拡大が困難な状況ならば内容の高度化に取り組むのも一案である。

## 8. JMTDRの改善点

今回の派遣中に気付いたことを簡条書きに列挙する。予算の裏付けの必要なものも含まれているが、積極的に検討していただければ幸甚である。

### (1) 隊員の健康管理

#### A) 予防接種

隊員は緊急の出動のために派遣直前に予防接種を受けるのは不可能である。国際緊急援助隊が赴く地域は瘴癘の地が多く、予防接種で防ぎ得る疾病の予防には万全を期したい。

- ・義務付けるべきもの ・破傷風トキソイド（3回）10年有効（1回 3,000円）  
経口ポリオ（3回）10年以上有効（1回 3,000円）
- ・義務付けが望ましいもの ・B型肝炎ワクチン（3回）数年有効（1回 5,400円）
- ・派遣先により考慮 ・腸チフス経口生ワクチン（3回）3年有効  
黄熱病ワクチン（1回）アフリカ中央部、中南米の一部  
日本脳炎ワクチン（2回）タイ、インドの奥地  
γグロブリン（1回）A型肝炎流行地

(註) 破傷風、ポリオは途上国には多く見られ、万が一病気になるれば悲惨な結果となる。予防接種に時間がかかるので、前もって登録時に接種しておきたい。

B型肝炎は日本では医療従事者には義務付けられているが、JMTDR調整員に対してぜひとも接種しておきたい。腸チフス生ワクチンは日本では試用段階であるが、WHOも推薦している有効なワクチンである。

#### B) 公用旅券の渡航先

事故、急病に備え、緊急時の搬送先となるであろう国名をあらかじめ公用旅券の渡航先に記載しておくのが実際的であろう（緊急援助隊員は一般のJICA専門家と異なり傷害を受ける可能性が高いのであるから）。

渡航先を追加するのに要する数時間が隊員の生命にかかわる可能性もある。

## (2) シンボルマークの制定

日の丸の下に英語で説明しただけの現在のJDRマークではなく、新しい国際緊急援助隊のシンボルマークの公募が望まれる。トルコなどイスラム国家の多くでは国旗の使用を制限しているために、今回はJDRマークの使用に随分と気を使った。また、他国チームとの交流の際にシンボルマークのシールやワッペンを交換するのは欧米の習慣であり、すぐれたデザインのシンボルマークがあれば非常に大きな宣伝効果が期待できる。そして、公募することにより国民の関心を惹起することもできる。

また、シンボルマークのついたTシャツ、防水ウェア（資料8）も現地での人的プレゼンスを高める効果がある（他国チームと共に診療する機会が増えるが、その時にも所属先を明らかにしておきたい）。

## (3) カルテ、患者用診療カード、診療記録の統一

現在使われているカルテは1982年ごろICRCがカンボディア難民のために使用していたものを基礎にしてJMTDR用に改編したものと聞いている。入院患者用としては使用可能だが、外来患者には煩瑣にすぎて実用的ではない。この際、共通したフォーマットをもとに入院用と外来用の2種類のカルテを作成してみてはどうか。

また、患者がキャンプ内の診療所をショッピングする可能性を考慮して、UNICEFが作成した患者用カード（UNIPACのEmergency Kitsに含まれている）のようなものを導入する必要がある。必要な患者には診断名、投薬した薬品などを記載したカードを持たすことが患者のためにも必要であろう。

また、2次隊、3次隊が出た場合には、診療記録の統一が必要不可欠である。統一された診療記録案として、下記に一例を上げる（資料9）。

## (4) 予防医学的な発想の取込み

地震被災の場合と違って難民や洪水後の救済の時には、緊急時から予防医学的な発想が求められている。具体的には、次のような活動を念頭に置くべきである。

### A) キャンプ訪問活動

病院に受診する患者だけを診ていてはいけない。被災者全体をターゲットにして医療活動をする必要がある。具体的には、看護婦と通訳でキャンプを巡回し、重い症状を呈する患者を病院に紹介する（一種の訪問看護、ドイツ赤十字は毎日2チームで山岳のキャンプにいる難民を訪問）などの方法がある。

#### B) . 予防接種

麻疹は密集したキャンプ地では非常に流行しやすく、また子供の致死率も高い。WHO/UNHCR/UNICEFでは麻疹の予防接種を勧めている。ただ、そのためには冷蔵庫や大量のディスポ注射器が必要になるので予算面で大変。

#### C) . 簡易水質検査キット

残留塩素、一般細菌、大腸菌群などを測定し、水の用途に応じた殺菌法（塩素、煮沸など）を考慮できる。

#### D) . 体重計

栄養状態や脱水の程度を客観的に判定するのに必須のものである。乳幼児と成人用の2種類がある。

#### (5) 医療マニュアル作成

現行のJMTDRマニュアルは作成されてから年数も経過しており、現在までの多彩な活動の蓄積をもとに、より具体的なマニュアルを検討する時期に至っているJMTDR隊員として初めて参加する人にも役立ち、経験者も現地に携行すれば役立つような基礎的な情報をまとめたものが望ましいと思う。大きさはA5版、200頁ぐらいが適当であろう。マニュアルの具体案を下記に挙げる。

#### 国際緊急援助隊・医療チームマニュアル（目次・案）

1. 国際緊急援助隊の仕組み
2. 隊員派遣の方法と派遣の注意
3. 災害時医療の実際
4. 難民緊急医療の実際
5. 簡単な救急手当て
6. 基本的な感染症対策
7. 携行機材一覧

#### (6) マネージメント能力の向上

緊急援助の多国籍化に伴い、日本チームが日本人だけで活動する時代は終わったと考えられる。キャンプ全体の保健医療状況や住民の健康水準を考慮しつつ、他国チームと連携して活動する能力が要求されている。とくにリーダー格の医師と調整員の適切なマネージメントは不可欠である。

そのためには、ICRC/WHO共済の緊急医療講習会（HELP 28日間コース：参加費1,500US\$）や欧米NGOの研修コースにJMTDR隊員を定期的を送り、国際的な緊急援助の方法論を身につける必要がある（この視点からみると、国際救急学会への参加は全く役に立たない）。

#### (7) 「広義の要請」概念の導入

被災国からの正式の要請が出るのを待っていれば、緊急援助のニーズの最も高い時期に現地に到着するのはむづかしい。トルコにおける他国チームの多くは、正式要請を取りつける以前に、人員と機材の通関協力が得られた時点でトルコに入国し活動を開始していた。

今後は、正式要請書が出される以前に派遣できるように「広義の要請」（例えば被災国からの一般的アピールと通関協力の確認書）という概念を導入する必要があるのではないかと感じた。

#### (8) 防災の観点を含んだ撤退

緊急援助は相手国の要請を受けて実施されるものであるが、相手国の土地で活動するわけなので、携行してきた機材は相手国に贈与して帰るのが国際的な風潮になってきた。テントやEmergency Kits (UNIPAC)は特に相手国に喜ばれ、また、今後の防災という観点からも有用である。半日ぐらいの簡単な講習会を開き（前もって講習会用のパンフレットを作成しておく）、その後相手国に贈与することを基本にすることが望ましい。

日本の防災体制は世界的に見ても高く評価されており「防災」の観点を含んだ緊急援助のあり方を模索していくことは、地震、火山、水害などを経験してきた先進国として、世界から高く評価されるに違いない。

## 9. おわりに

今回のJMTDRトルコ派遣チームは、彼我の物量の圧倒的な相違にも係らず、UNHCRを初め各国チームから高い賞賛を受け、またトルコ保健省からも感謝状を頂戴した。

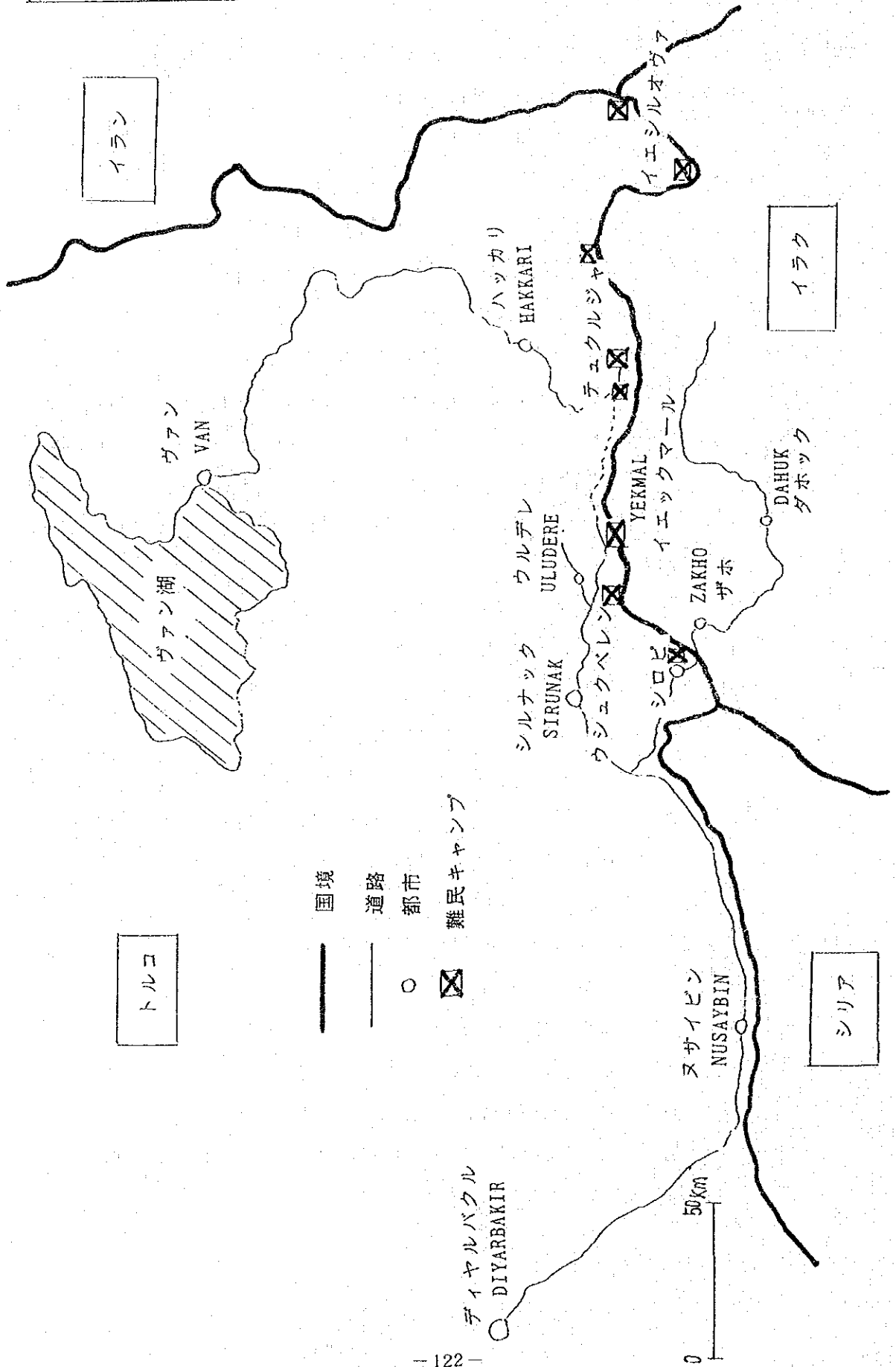
また現地では難民キャンプ内でのテント生活という困難にも係らず、隊員全員が各々のプロフェッショナルな技術を十二分に発揮し、始終チームワークを維持し任務を完全に遂行できた。その意味では、マスコミに注目されることはなかったが専門的な視点からは最も成功したチームのひとつに数えられるのではないかと思う。これもひとえに、外務省技術協力課、在トルコ日本大使館、JICA医療協力部緊急援助室の方々のご助力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。

最後にこの報告では技術的な面に焦点を絞って考察してきたが、結局は隊員ひとりひとりの献身的な努力と熱意が今回のような成功を生み出したことを強調して結びとしたい。

国際緊急援助隊医療チーム・日程

- 1991年5月 9日(木) 成田発LH-711便(1355/1900)にてフランクフルト着  
10日(金) LH-1582便(1310/1720)にてアンカラ着  
池田公使主催夕食会 (ビュックアンカラホテル泊)  
11日(土) オクテム・トルコ保健省次官補表敬  
トルコ赤新月社・セビル事務局長代理表敬  
12日(日) 生活用資材調達。今川副団長アンカラ着  
13日(月) GRN-145便(1100/1215)にてディアルバクル着  
UNHCR、トルコ赤新月社を訪問後、16:40 ディアルバクル発  
19:15 ヌサイビン着(ヌサイビン・ネジルハン・ホテル泊)  
14日(火) 07:30 ヌサイビン発 10:00 シルナック県保健センター長訪問  
12:40 シルナック発 15:00 イエクマール・キャンプ到着  
住居用テント、トイレなど設営(イエクマール・キャンプ泊)  
15日(水)  
| イエクマール・キャンプにて医療活動に従事  
21日(火)  
22日(水) 07:00 キャンプ撤収作業開始 10:50 イエクマール・キャンプ発  
13:30 シルナック県保健センター長訪問 15:30 シルナック発  
18:15 ヌサイビン着(ヌサイビン・ネジルハン・ホテル泊)  
23日(木) 09:00 ヌサイビン発 12:00 ディアルバクル着  
UNHCRを訪問後、  
TK-259便にてアンカラ着(ビュックアンカラホテル泊)  
24日(金) オクテム・トルコ保健省次官補表敬  
医療機材、テント等の振り分け作業  
25日(土) 報告書作成、会計整理、団長主催の夕食会  
26日(日) TK-111便(08:00/09:05)にてイスタンブール着  
27日(月) LH-1109便(18:15/20:20)にてフランクフルト着  
28日(火) LH-710便(17:20/11:40)にてフランクフルト発  
29日(水) 11:40 成田着

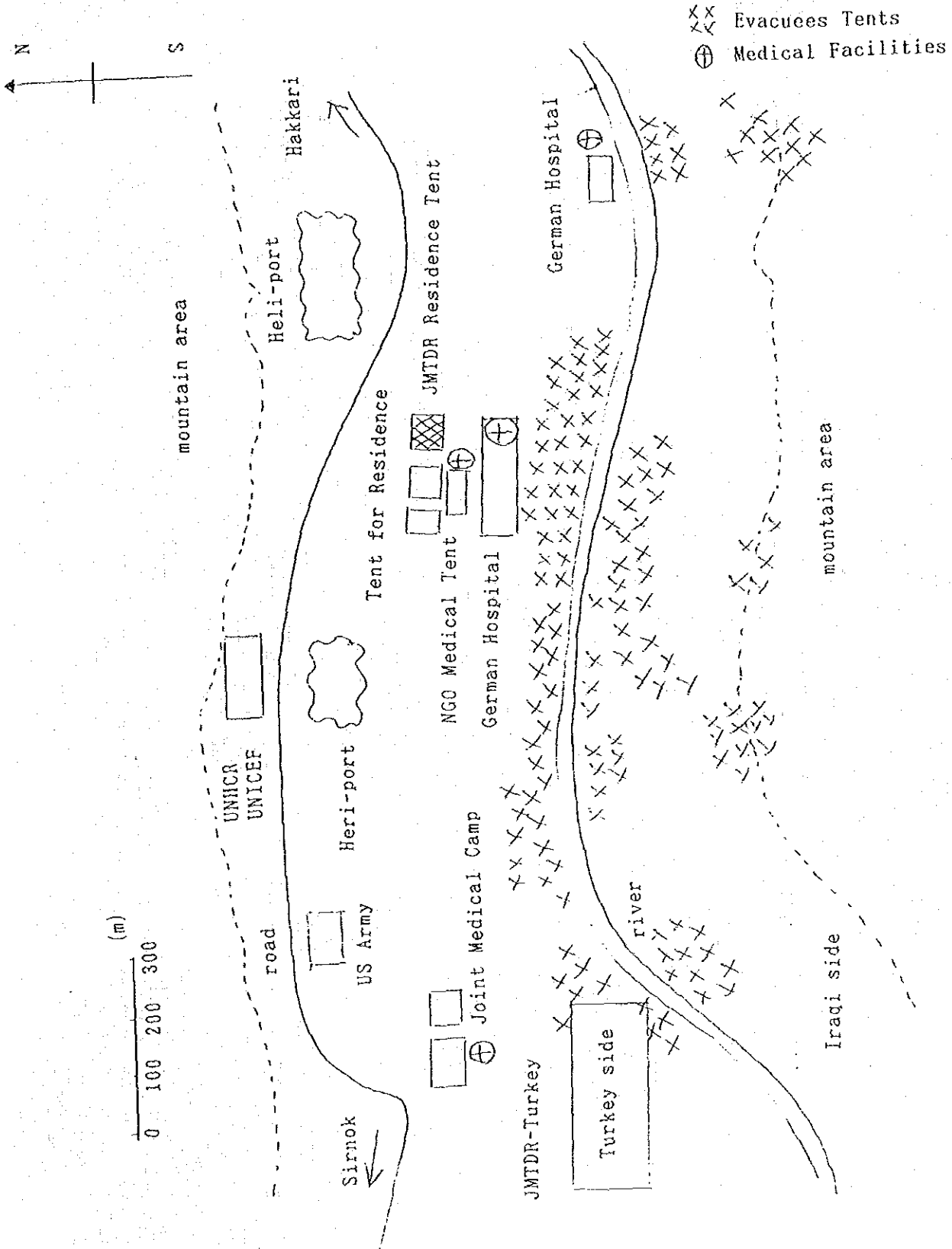
トルコ流入イラク避難民キャンプ図



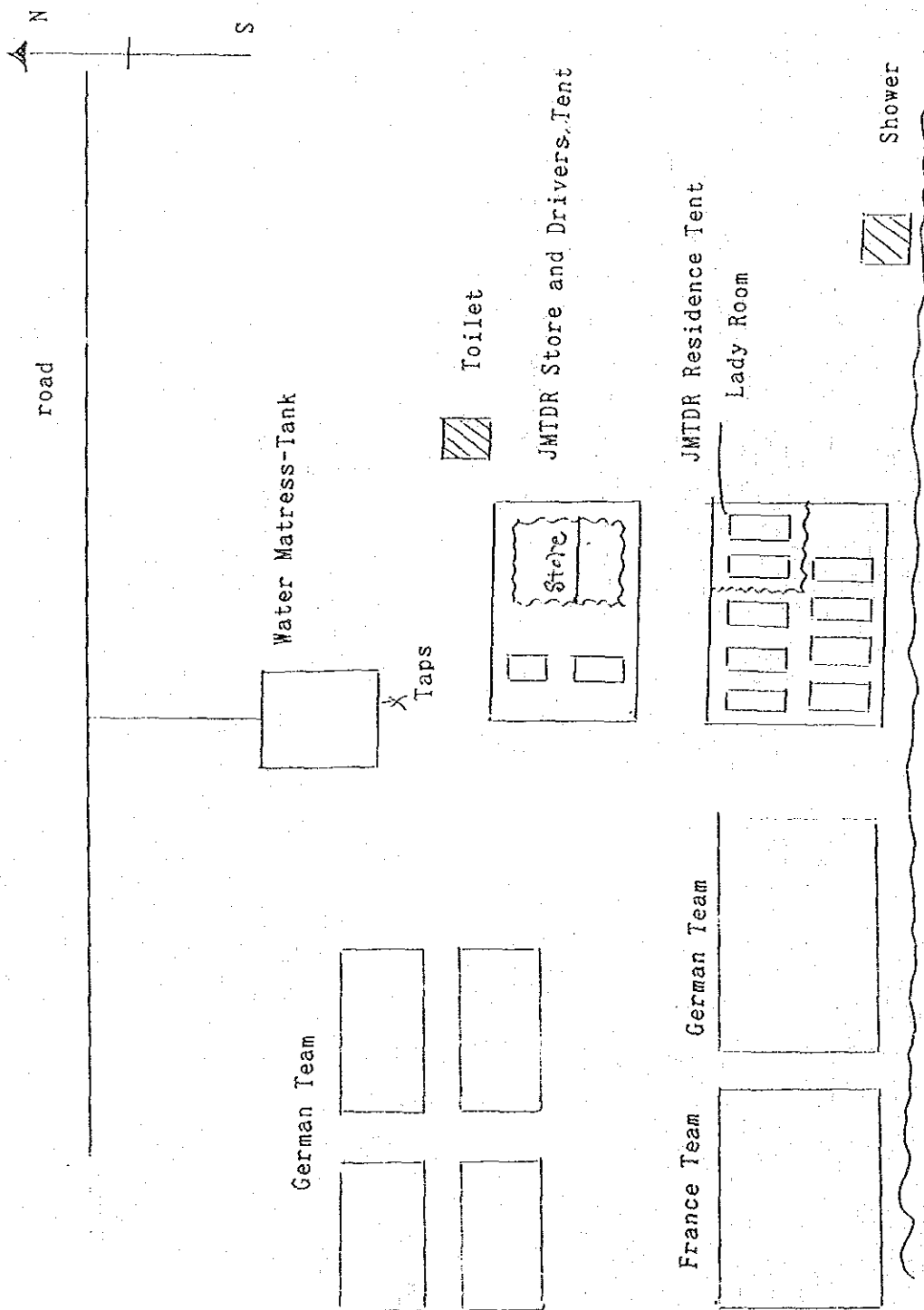


# YEKMAL CAMP

(as of 15 May 1991)

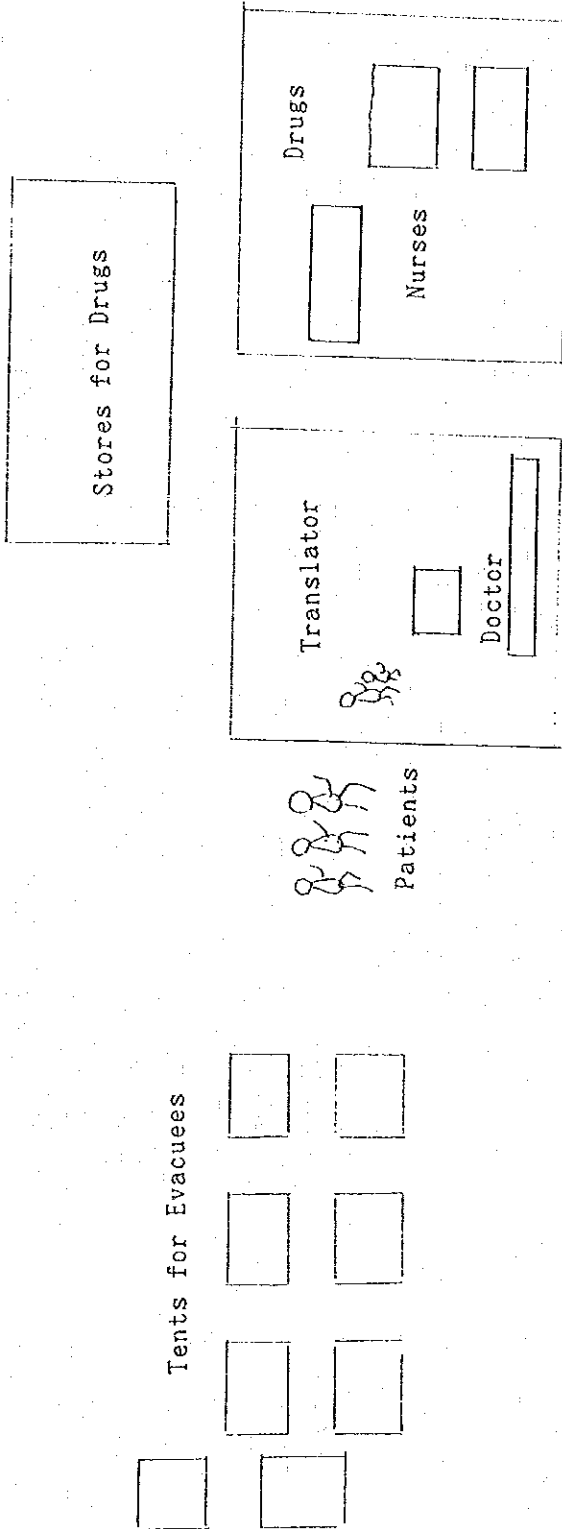


JMTDR Tents for Residence



Turkey-JMTDR Joint Medical Tent

road



OFFICIALS MET IN TURKEY

Ministry of Health, the Government of Turkey;

- Mr. Rifat Öktem (Dupty Undersecretary)
- Dr. Mehmet Temiz (Director, Sirnak Coordination Office)

Turkey Red Crescent (Kizilay);

- Mr. Ender Tamer (Dupty Director General)
- Dr. Hüseyin T. Sevil

Government of Turkey;

- Mr. Mustafa Tas (Sub-Governor of Uludere)

UNHCR;

- Ms. Elizabeth T. Gutnick (Diyarbakir Coordination Office)
- Mr. Daniel Leblanc (Yekmal, Programme Officer)
- Mr. Johan Cels (Yekmal)

UNICEF;

- Mr. Hakan Erman (Yekmal)
- Ms. Özlem Demirtazli (Yekmal)

US Army;

- Mr. Helfer (Major, Green beret)
- Mr. Mark Nakagawa (Yekmal)
- Mr. Richardson (Yekmal)

German Red Cross;

- Dr. Goetzfried (Health Coordinator)
- Dr. Klaus Burghard (Director of Hospital)
- Prof. Wolfram Schuffel (Medical Advisor)

Canada Red Cross;

- Dr. Capt. Petit (Armed Forces)

AICF (Action Internationale Contre la Faim);

- Dr. Herve Poutet (Team Leader)

Statistics of JMTDR Activities in Yekmal  
(15 May 1991-21 May 1991)

Diagnosis	< 1		1-4		5-14		15 <		Total	
	M	F	M	F	M	F	M	F		
Diarrhea (bloody)	0	0	2	2	1	0	1	1	7	2%
Diarrhea (non-bloody)	4	1	6	4	4	1	7	2	29	10%
ARI (pneumonia)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ARI (non-pneumonia)	1	0	4	1	5	5	13	4	33	11%
Measles	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Wounds/Fractures	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
Skin Infection	0	0	6	1	4	5	10	2	28	10%
Others	2	2	5	3	15	9	102	48	186	65%
Total	7	3	23	11	30	20	133	57	284	
Fever	2	1	10	4	6	4	1	3	31	
Malnutrition	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

## キャンプ日誌

- 5月14日(火) 午後3時ごろイエクマール・キャンプに到着。キャンプ内にテントを張ろうとしても同行の保健省スタッフはオロオロするばかり。難民のようにキャンプをさまよって歩くうちにUNHCRスタッフを見つけ、恰好の場所を確保。エアータントを張ろうとすると陽気な米軍兵士が「ヘイ、カモン」難民さんを集めてくれた。トイレも作ってくれ、7時すぎになんとか眠れる体制ができ、安堵の溜め息。
- 5月15日(水) 朝から診療開始。医師、看護婦は住居テントからキャンプの西にある医療テントまで、張り切って車に乗って出勤。スウェーデンチームが我々のために20トンの水を給水してくれた。水を十分に使えることの幸せを感じる。
- 5月16日(木) 記録的な集中豪雨(トルコ東部で死者40名)。この日も診療は休まず。坂ばかりのイエクマール全体が泥んこ。夜になってテントの中にまで浸水し、私物がびしょびしょに濡れる被害も出た。泥と雨に打たれて団員の姿は難民そのもの。
- 5月17日(金) 今日も朝から難民さんのトラックが何十台も並んでいる。雨の翌日の冷え込みは格別。夜トイレに行こうとテントを出たら、歯がガタガタ震えてしまった。
- 5月18日(土) ヘリコプターが発着するたびにテントの中にも砂ぼこりが舞い込む。これが一日100機以上。皆でイエクマールの夜空の星をながめていたら、トルコ人の運転手に日本人は何をしているのかと不思議がられる。
- 5月19日(日) 日本チーム主催の「ビール&おにぎり」パーティー。参加者何と100人を越し、イエクマールにいる国際機関や援助団体のスタッフが全員集合。外人さんの高笑いも夜11時までイエクマールの夜空に響いていた。
- 5月20日(月) この日から突然キャンプ中が撤収準備。フランスチームが毛布3000枚を難民に配ろうとしたところ、難民がテントの中に殺到。ヒゲ面をした大人が子どもから毛布を奪い取る、1枚の毛布を掴んで女同士の喧嘩、阿鼻叫喚の世界を見てしまった。
- 5月21日(火) 本日最終診療日。キャンプ人口は減っているのに患者数は47人と不変。人気の高まる日本チームでした。ドイツチームのコックさんから、生ハム、チーズ、ソーセージを分けてもらい、イエクマール最後の晩餐は最高のごちそう。日本チームの誇るシェフ、喫茶店のマスターさん、長い間本当に御苦労様でした。
- 5月22日(水) 朝から快晴。7時から始まった撤収作業も10時にはほとんど終了。国連機関や各国チームにサヨナラの挨拶。「また、世界のどこかで必ず会えるよ！」

図2：防水ウェアの一例

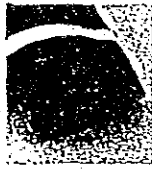
(これはANAが作成しているもの)

- 1) 素材はゴアテックス (現場での厳しい気象条件にも耐えられる)
- 2) ロゴ入り

以上2点がポイント



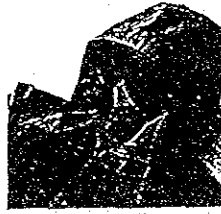
●真中に  
発光色のラインが



●真綿であるウエスト部



●二重になった袖口



●とりはずしできるフード

サイズ表	M	L	LL
身長(cm)	160~170	170~180	175~185
胸囲(cm)	80~92	90~98	96~104
腕囲(cm)	70~80	76~88	84~98

サイズコード	003	004	005
(サイズ)	M	L	LL

※上記のサイズコードをご記入ください。

ツーリングや釣りにぴったり。

高品番号(A11288)

◆ANAスタッフレインウェア…¥28,000

苛酷な条件のもとに働く、ANAの空港整備士受用のレインウェア。防水性、透湿性、防風性に優れた理想のアウトドア素材、ゴアテックスを使用。風雨をシャットアウトしながら、汗は外に逃すのでムレの心配がありません。雨の日の釣りやツーリングにも威力を発揮。とくに、背中と袖口の発光色のラインはライダーの安全に役立ちます。軽くて動きやすく、何度洗っても性能が落ちないのもうれしい。

●素材:ゴアテックス ●サイズ:サイズ表参照 ●右肩にANAロゴ入り

表1 STATISTICS OF JMTDR ACTIVITIES

DATE : \_\_\_\_\_

PLACE : \_\_\_\_\_ (Hospital/Out Patient Clinic)

AGE SEX	< 1 yr		1 - 4 yrs		5 - 14yrs		≥15yrs		TOTAL	
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
WOUNDS/FRACTURES										
BURNS										
DIARRHOEA(BLOODY)										
DIARRHOEA(NON-BLOODY)										
ARI (PNEUMONIA)										
ARI (NON-PNEUMONIA)										
MEASLES										
SKIN INFECTION										
OTHERS										
TOTAL										
FEVER										
MALNUTRITION										

ARI : Acute Respiratory Infections

(註) 疾病別に統計をとることが肝要。とくに、下痢症、急性呼吸器感染症 (ARI)、麻疹については、WHOやUNHCRでも難民や被災者の全体像をつかむ上で必要最小限の情報とされている。また、再掲の形で発熱と栄養失調の患者数を挙げた。全体患者数の中の発熱と栄養失調の割合を知ることにより、住民全体のおおまかな健康水準を推測できるからである。



## 1. キャンプ設営及び生活

今回、避難民援助で派遣の全期間をキャンプ生活することは大変珍しいとのことであり、今後この様なキャンプ生活による援助が増加されると推測されるので、快適かつ活動的に過せる“キャンプの設営方法”を反省を含め述べます。今後の参考とされれば幸いです。

### ① キャンプ設営の必需品

- セメント袋 50kg …… 2～3袋
- スコップ、つるはし …… 3～4本
- プロパンガス及びガスコンロ …… 1～2セット
- 貯水用強化ビニール水タンク 5～10m<sup>3</sup> …… 1式
- 板材・丸材、テーブル用 その他に使用 …… 多数
- 簡易水質検査セット …… 1式

残留塩素・一般細菌・大腸雑菌部・濁度等の度合を測定し、水用途に適應する処理を早急に行える。

- 大型のなべ・かま・ヤカン …… 多数
- 一般炊事用まな板・包丁 …… 1式
- ロープ、梱包用・洗濯用 …… 50m～80m
- バケツ・ポリバケツ大型 …… 多数
- 食器・ザル・盆・ボール他 …… 多数
- 大型のほうき・モップ …… 多数
- ビニールひも、キャンプの区画設定 …… 多数

### ② 食糧

- 正油・ミソ・味の元・塩・コショウ・トウガラシ …… 適量
- 野菜・ミルク・カシ・食用油・パン 他 …… 適量

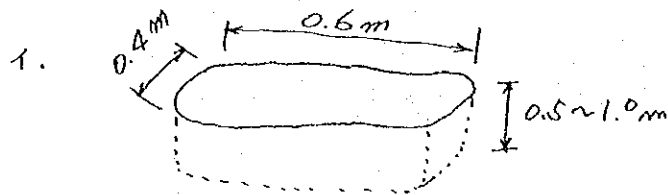
これら必需品・食糧は一部の品目を除き現地で入手することが可能です。なるべく日本からの携帯品を少なくする様にした方が移動・運搬等活動的になれると思われれます。

③ トイレの作り方

キャンプ生活を快適に過ごすために、食事と排泄は満足なものにしたいものです。

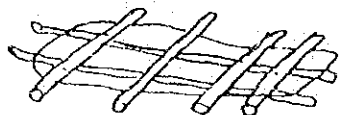
トイレの個数は団員10名未満だと1カ所で良いが10名以上だと2カ所は必要であると思われます。

10名用トイレの規模は、1人排泄量を1日、1ℓとして10日分だと約0.1㎡の穴(0.4×0.6×0.5m)が必要となる。土質によっては垂直に掘れない場合もあり、穴の深さは1m程度が良い。



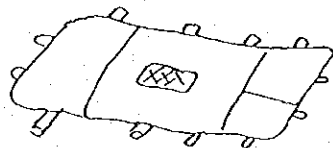
穴を掘る

ロ.



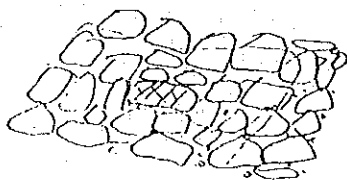
穴に丸木を渡す

ハ.



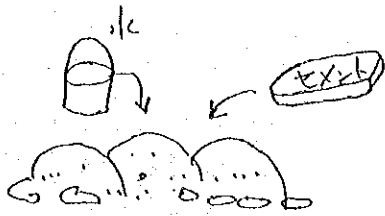
ダンボール紙を広めに敷く

ニ.



ダンボールの上に平たい石を敷く

ホ.



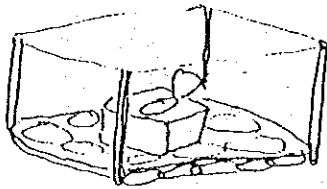
掘削後の土砂にセメント1、土砂3の割合でまぜ、適量の水を加え練りませ、ソイルコンクリートを作る。

ハ.



石敷の間及び上に平らになる様にコンクリートを打設する。半日～1日たてば使用可能。

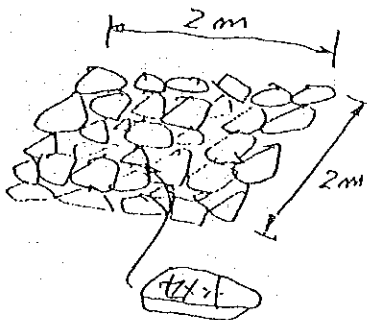
ト.



携帯用トイレを設置するか、もし無い場合は蓋をしても良い。あとはテントを立てて出来上り。

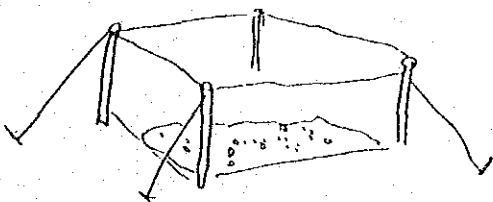
#### ④ 水浴場の作り方

イ.



平たい石を敷く。  
ソイルコンクリートが無い場合はセメントを石の上に充分まき、少量の水を加えて上をならす。半日～1日で使用可能。

ロ.



ビニールシートでかこみ出来上り。

⑥ 食事場及び炊事場

今回のキャンプは多種業に多忙であったため、別棟の食事場及び炊事場は設営しなかったが、エアートント近くの炊事は危険が伴うし、食事はたのしく行うため炊事・食堂用のテントを設営した方が良かったと思われます。これは雨天・風・土砂ほこりからも防げるし炊事の効率が良く、衛生的であるからです。

⑥ キャンプのたのしい食事

イ. 食事量は充分に作る。

ロ. 野菜・みそ汁も充分に作る。バラエティーのある献立。

ハ. 食後のコーヒーは心を和ませます。

今回はプロのマスターにより充分コーヒーをたのしみ、飲むことが出来ました。マスターどうもありがとうございます。

⑦ 段取り7分に腕3分

初期の難民医療援助は目がまわるほどの忙しさであり、効果的に行える医療活動を支援することが我々業務調整員の役割であります。そのためには、充分な打合せを行い、準備・設営・医療・日本隊のPR・キャンプ生活・撤収・運搬・移動等の段取りを充分に組立てなければならないと思われます。

今回は団長をはじめ団員の各位は経験者豊富であり、トルコ日本大使館よりの絶大な支援を賜わり、事故・支障なく医療業務が遂行されたことは、チームワークの勝利であったと信じます。

以上

国際緊急援助隊トルコ流入イラク避難民救済医療チーム携行機材一覧

通 番	資機材名 (ケース No.) (種別)	梱包大きさ (mm)	重 量 (Kg)	備 考
1	医薬品 (1) (緑)	450 × 700 × 300	2.6	フェラルミン
2	〃 (2) (〃)	450 × 700 × 300	2.5	〃
3	〃 (3) (〃)	450 × 700 × 300	3.5	〃
4	〃 (4) (〃)	450 × 700 × 300	2.5	〃
5	〃 (5) (〃)	450 × 700 × 300	2.4	〃
6	〃 (6) (〃)	450 × 700 × 300	2.3	〃
7	医療資材 (1) (赤)	400 × 600 × 400	2.5	クボール
8	〃 (2) (〃)	400 × 600 × 300	1.0	〃
9	〃 (3) (〃)	600 × 550 × 600	1.7	〃
10	〃 (4) (〃)	400 × 600 × 500	2.1	〃
11	〃 (5) (〃)	400 × 600 × 300	1.4	〃
12	〃 (6) (〃)	600 × 450 × 500	1.2	〃
13	〃 (7) (〃)	400 × 600 × 300	1.5	〃
14	生活用資機材 (1) (黄)	450 × 700 × 300	4.8	フェラルミン
15	〃 (2) (〃)	450 × 700 × 300	2.2	〃
16	〃 (3) (〃)	450 × 700 × 300	2.4	〃
17	〃 (4) (〃)	450 × 700 × 300	3.5	〃
18	〃 (5) (〃)	630 × 390 × 390	1.0	クボール
19	〃 (6) (〃)	630 × 390 × 390	3.0	〃
20	〃 (7) (〃)	630 × 390 × 290	3.5	〃
21	〃 (8) (〃)	630 × 390 × 390	9	〃
22	〃 (9) (〃)	630 × 390 × 390	9	〃
23	〃 (10) (〃)	630 × 390 × 390	1.1	〃
24	〃 (11) (〃)	730 × 470 × 260	3.2	〃
24 カートン		2.4 M <sup>3</sup>	537 Kg	

J M T D R 医薬品  
(緑 色)

通番 No.	Item No.	一般名	商品名	規 格	数 量
1	1	重碳酸ナトリウム	メイロン	7% 50mlx5A	10
	2	エビネフリン	ボスミン	1% 1mlx20A	1
	3	硫酸アトロピン	硫酸アトロピン	0.5mg 1mlx10A	5
	4	1%塩酸リドカイン	1%キシロカイン	20ml	100
	5	ジアゼパム錠	セルシン錠	2mg100T	5
	6	ジアゼパム注	セルシン	2mlx10A	10
	7	10%フェノバルビタール	10%フェノバル	1mlx10A	5
	8	25%スルピリン	25%メチロン	1mlx100A	1
	9	ペンタゾシン	ペンタジン注	30mg 1mlx10A	5
	10	アスピリン	アスピリン	30T	10
	11	イブプロフェン	ブルフェン	100T	2
	12	デスラノシド	セジラニド	2mlx50A	1
	13	アミノフィリン	ネオフィリン	30A	2
	14	カルニゲン	カルニゲン	2mlx10A	2
	15	ニフェジピン	アダラート	10mg120cap.	10
	16	フロセミド	ラシックス	2mlx10A	5
2	17	スルファメトキサゾール+ トリメトプリム	バクタ	100T	5
	18	アンピシリン	ピクシリン	1gx10V	10
	19	アンピシリン	ピクシリン	250mgx100cap	5
	20	アンピシリン	ピクシリン ドライシロップ	1gx500P	1
	21	セファロチン・ナトリウム	ケフリン	1gx10V	10
	22	セファレキシム	L-ケフレックス	1gx100	2
	23	テトラサイクリン	アクロマイシンV	250mg100cap.	2
	24	クロラムフェニコール (注)	クロマイサクシネート	1gx1V	100
	25	クロラムフェニコール (錠)	クロマイ	250mg100T	5
	26	硫酸ストレプトマイシン	ストレプトマイシン	1gx10V	5
3	28	経口補水塩 (ORS)	(ORS)	5,250g (35g/人)	3
	29	ソディウムクロライド	塩化ナトリウム	20mlx50A	8

通番 No.	Item No.	一般名	商品名	規格	数量
4	30	生理食塩水	生理食塩水	20mlx50A	8
	31	5%糖液	5%糖液	20mlx50A	4
	32	20%D- マンニトール	20% マンニトール	500mlx10V	1
	33	臭化ブチルスコボラミン	ブスコパン	10A	5
	34	胃腸薬	新三共胃腸薬	500T	1
	35	下剤	ラキソナリン	10T10 入	1
	36	止瀉剤	ロベミン	100cap	1
	37	塩酸ケタミン	ケタラール50	10mlx10V	1
	38	塩酸ケタミン	ケタラール10	20mlx10V	1
5	39	サイアミラール	イソゾール	0.5gx50A	1
	40	ニトラゼパム	ベンザリン	5mg100T	1
	41	塩酸ジブカイン	ベルカミンS	3ml10A	3
	42	塩酸リドカイン	キシロカインゼリー	30mlx5	2
	43	塩酸リドカイン	キシロカインスプレー	8%80g	5
	44	フマル酸クレマスチン	タベジール	1mg100T	1
	45	グルコン酸クロルヘキシジン	5%ヒビテン液	500ml	3
	46	ポビドンヨード	手術用イソジン液	250ml	8
	47	オキシドール	オキシフル	500ml	8
6	48	塩化ベンゼトニウム	ハイアミン液	500ml	5
	49	注射用蒸留水	注射用蒸留水	20mlx50	1
	50	テラコートリル	テラ・コートリル軟膏	25g	20
	51	リンデロンVG軟膏	リンデロンVG軟膏	30g	10
	52	クロタミトン	オイラックス	10g	10
	53	ワセリン	白色ワセリン	500g	1
	54	消毒用エタノール	消毒用エタノール	500ml	2
	55	クロラムフェニコール点眼液	点眼用クロマイ	500ml	1
	56	複合ビタミン剤	バンピタン錠	500T	1
	57	クレゾール	クレゾール	500ml	3
	58	パテックスハイ	パテックスハイ	12枚入	5
	59	点眼びん	点眼びん	100 入	1
	60	マルチスティックス	マルチスティックス	100 枚入	1

J M T D R 医療機材  
(赤 色)

通番 No.	Item No.	品 名	数 量
7	1	聴診器 リットマン型ステンレス	3
	2	小児用聴診器	2
	3	打診器 針ハケ付 大貫氏	2
	4	電子体温計 テルモ	5
	5	血圧計 タイコス DRA2	2
	6	小児用マンシエット 中、小	各1
	7	駆血帯 5m	1
	8	ペンライト MS	3
	9	ディスク舌圧子 200 枚入	1
	10	心電計 ECG6201 ロールペーパー 10巻付	1
	11	メジャー 自動2m 布製	1
	12	綿子 ディスコ 咽鼻用100 本入	1
	13	持針器 マッチュー 16cm	2
	14	止血かん子 コッヘル有直 14cm B/L	2
	15	ベアン 無直 14cm B/L	2
	16	モスキート 有直 12.5cm B/L	2
	17	モスキート 無直 12.5cm B/L	2
	18	外科せん刀 両鈍反 14cm	1
	19	外科せん刀片尖反 14cm	2
	20	ピンセット 有鉤 13cm	2
	21	ピンセット 無鉤 13cm	2
	22	メスホルダー No. 3	2
	23	替刃メス 20枚入 No.15	1
	24	替刃メス 20枚入 No.11	1
	25	消息子18cm	1
	26	縫合糸 滅菌、シルクブレード No.3	500
	27	縫合針 外科用10本入 3,5,7	各 2
	28	有鉤消息子 ローゼル	1
	29	気管へん平鉤 単鋭鉤 03-001-21 両鋭鉤 03-001-23	1 1
	30	縫合糸 滅菌、シルクブレード No. 5 & 7	各 500
	31	手術用手洗ブラシ	5
	32	ディスク手袋 100 枚入	5
	33	カルテ	100
	34	トリアージ タッグ	100



通番 No.	Item No.	品 名	数 量
8	35	手術用手袋 滅菌 6、7	各 40
		“ “ 6.5、7.5	各 60
9	36	輸液セット	200
	37	翼状針 21G、25G	各100
	38	活性炭入ディスクマスク 10枚入	10
	39	ディスク注射針つき 2.5cc, 5cc, 10cc	各100
		20cc	50
	40	ディスク注射針 21G x	100
23G x		100	
41	滅菌ガーゼ 30 x 25 cm ステラーゼ	400	
10	42	滅菌シート 小 500 x 600	50
	43	消毒盤 27 x 21cm ステンレス	2
	44	ノーボン ステンレス 21cm	2
	45	手動式蘇生器 バックマスク No. 22000	1
	46	同 上 マスク 大、中、小	各1
	47	エアウェイ ポリ製	1
	48	手動吸引器 足踏式	1
	49	喉頭鏡 ハンドル	1
	50	同上 ブレード 大、中、小	各1
	51	気管内チューブ カフ付 7,8,8.5	各10
	52	同 上 カフなし 3.5,4,4.5,5,6	各3
	53	スタイレット	1
	54	開口器 エスマルヒ	1
	55	舌かん子コラン	1
	56	バイトブロック 大、小	各1
	57	吸引チューブ ネラトン Fr 4,6,8	各3
		同 上 ネラトン Fr 10,13	各4
	58	気管切開チューブFr 30, 32, 36, 38	各2
	59	小ペアンモスキート 10.5cm無鈎	2
	60	胃管カテーテル E6、8	各10
61	尿バルンカテーテル Fr 18,8	各10	
62	紙ばん創膏9m/m x 10m	40	
63	タオル	10	
64	ハルンカップ	100	
65	軽便カミソリ	20	
66	救急ばん Mサイズ 19 x 72m/m 200 枚入	1	

通番 No.	Item No.	品 名	数 量	
1 1	6 7	脱脂綿 未滅菌 500g	1	
	6 8	包帯伸縮 5.4 x 9m Nタイプ	10	
		9 x 9m Nタイプ	10	
	6 9	アルフェンスシーネ 2,3,4号	24	
	7 0	網包帯ニュースネット 2,3,6	各1	
	7 1	弾性包帯 Aタイプ		
5cm x 4.5m		10本入	5	
7.5cm x 4.5m		10本入	5	
		10cm x 4.5m	10本入	5
1 2	7 2	手術用ガウン LL:10、L:30、M:15	55	
	7 3	キャップ	100	
1 3	7 5	舌圧子	木製	200
	7 6	尿コップ	紙製	300
	7 7	綿棒		200
	7 8	聴診器		2
	7 9	作業衣		20

J M T D R 生活用資機材  
(黄 色)

通番 No.	Item No.	品 名	仕 様	数 量
14	1	強力ライト (水中)	BF-151	2
	2	強力ライト (蛍光灯付)	BF-769	2
	3	キャンドル用ランタン	CF-102	2
	4	補給用キャンドル	4本入	10
	5	トランジスターラジオ	ICF-7600A	1
	6	ウォークマン	WM-R15	1
	7	カセットテープ	120分	6
	8	双眼鏡		1
	9	3徳スコップ	T-3342	1
	10	電池	単I	100
			単III	100
	11	トイレ処理剤		10
15	12	コッヘル	CA-002	1
	13	フライパン	CA-221	1
	14	やかん	CA-083	1
	15	まな板セット	CC-141	1
	16	アルミカップ		12
	17	食器セット (アルマイト)	T-3079	4
	18	プラスチックボール	T-3070	8
	19	はし	100本入	1
	20	布たわし		3
	21	ふきん		5
	22	ポリタン	5ℓ	2
	23	〃	10ℓ	2
	24	ビニールバケツ	15ℓ	4
	25	缶切り		1
	26	中性洗剤		1
	27	クレンザー		1
	28	タオル		5
	16	29	ティッシュペーパー	
30		トイレットペーパー		20
31		石鹼	ミューズ	12
32		粉石鹼	4g 120袋入	3
33		大工セット		1
34		裁縫セット		1
35		ほうき		1
36		マッチ		5

通番 No.	Item No.	品 名	仕 様	数 量
17	37	文房具セット		1
	38	ミニ文房具セット		2
	39	乾湿温度計		1
	40	ボールペン	黒、赤、青	各15
	41	マジック	7色入 6色入	1
	42	〃	大、中	7
	43	ノート	B5	5
	44	レポート用紙		4
	45	用せんバサミ		12
	46	セロテープ		2
	47	のり	スティック	5
	48	接着剤		5
	49	チョーク	白、赤	各12
	50	タッグタイトル	10袋	1
	51	カラーテープ	3色	5
	52	封筒	大、中、小	各10
	53	クリップ	大、小	各1
	54	電卓		2
	55	ガムテープ		5
	56	ビニールひも		1
	57	輪ゴム		1
	58	カメラ		1
	59	フィルム	36枚	30
	60	アーミーナイフ		2
	61	ポリ袋	大、中、小	各100
	62	軍手		24
	63	防水スプレー	スコッチガード	2
	64	ろ水器	真清水	4
	65	国旗		2

通番 No.	Item No.	品 名	仕 様	数 量
18	66	インスタント・ラーメン		78
19	67	カレー		130
20	68 69	ライス カレー		140 10
21	70	ラーメン		78
22	71	ラーメン		60
23	72 73	ミソシル ラーメン		20 84
24	74 75 76 77 78 79	ライス カレー 中華丼 親子どん 牛丼 ミソシル		60 30 10 10 10 20

トルコ援助隊携行リスト (エアーテントセット)

コンテナ No.	Item No.	品 名	数 量
A-2	1	テント天井梁	1
	2	テント付属品	1
	3	折畳ベッド	4
	4	折畳デスク	1
	5	シャワーキット	1
	6	トイレ用テント	1
	7	寝袋	5
	8	カーテン	2
A-4	9	蛍光灯 (40W×2)	1
	10	コードリール	1
	11	折畳ベッド	2
	12	折畳デスク	2
	13	シャワーキット	1
	14	トイレ用テント	1
	15	寝袋	5
	16	折畳椅子	4
A-6	17	テント天井梁	1
	18	テント付属品	1
	19	蛍光灯 (40W×2)	1
	20	折畳ベッド	3
	21	折畳デスク	1
	22	缶 (携行燃料用)	2
B-2	23	発電機 3KVA	1
T-3	24	テント本体	1
	25	キャスター	1

項目 No.	Item No.	品名	数量
T-4	26	テント本体	2
	27	キャスター	1
医療 項目	28	煮沸用滅菌器	1
	29	滅菌器用トランス	1
	30	滅菌器用発電機 GA1600	1
	31	コードリール	1

トルコ援助隊携行リスト（20人用テント）

項目 No.	Item No.	品名	数量
1	1	天幕	1
2	2	センターポール	1セット
3	3	サイドパイプ	1セット

トルコ援助隊携行リスト（浄水機）

項目 No.	Item No.	品名	数量
1	1	浄水機	1
2	2	同上カートリッジ	1





## (6) ミャンマー火事災害



物資供与の経緯および概要

4月7日午後7時30分マングレー管区メティラ市（マングレー南南西120Km）で一民家のろうそくの火による出火と見られる火事が発生した。

被災地は低所得者居住地域であり、且つ住宅密集地域でもあった為、被害が増大した模様である。

ミャンマー政府は、国連に対し正式に今次メティラ火災に係る緊急援助を要請し、在「ミ」日本国大使館を通じ、我が国にも正式に援助要請を行った。

これを受けて、我が国としても今次災害が緊急援助を行った89年2月のマグイ火災等、ミャンマー国に於ける過去の火災災害のいずれよりも規模が大きい事に鑑み、緊急援助物資の供与を行うこととした。

1	国名	ミャンマー連邦
2	災害区分	火災
3	災害発生時期	1991年4月7日
4	災害の規模	死者 約 30 人 負傷者（火傷） 約 50 人 家屋焼失 5,215 戸 被災者 約 2万 8千人
5	活動区分	援助物資の供与 医薬品、医療資材、毛布、リベンダット、 利クク、洗剤、石鹼、食器セット、タオル 懐中電灯
6	供与時期	1991年4月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	29 人	建物被害	5,215
負傷者（大火傷）	50 人	学校	7
被災者	28,000 人	消防署	3

（5月18日 UNDR0情報）

4月25日(木)午後5時、外務省よりミャンマー国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

## 記

### 1. 外務省及びJICAの対応

1) 火災被害の被災者救済に必要な緊急性を有する援助物資をミャンマー政府の要請に応じ援助する。

2) 緊急援助物資：総額2,385万円(含輸送費)

① 成田備蓄分	
スリーピングマット	1,000 枚
ポリタンク	260 台
懐中電灯	296 ケ
懐中電灯用替え電池(単1)	3,500 ケ

② シンガポール備蓄分	
毛布(普通用)	2,500 枚
食器セット	1,000 枚
ポリタンク	300 ケ
懐中電灯	500 ケ
石鹸	3,000 個
タオル	3,000 枚
洗剤	280 Kg

③ UNIPAC(コペンハーゲン)調達分  
医薬品及び医療資機材 2セット  
\*詳細は別紙参照

### 2. ミャンマー火災状況(メティラ市)

1) 発生日時：4月7日(日)午後7時30分(現地時間)

2) 火災原因：ろうそくの火

3) 発生場所：マレンダー管区メティラ市

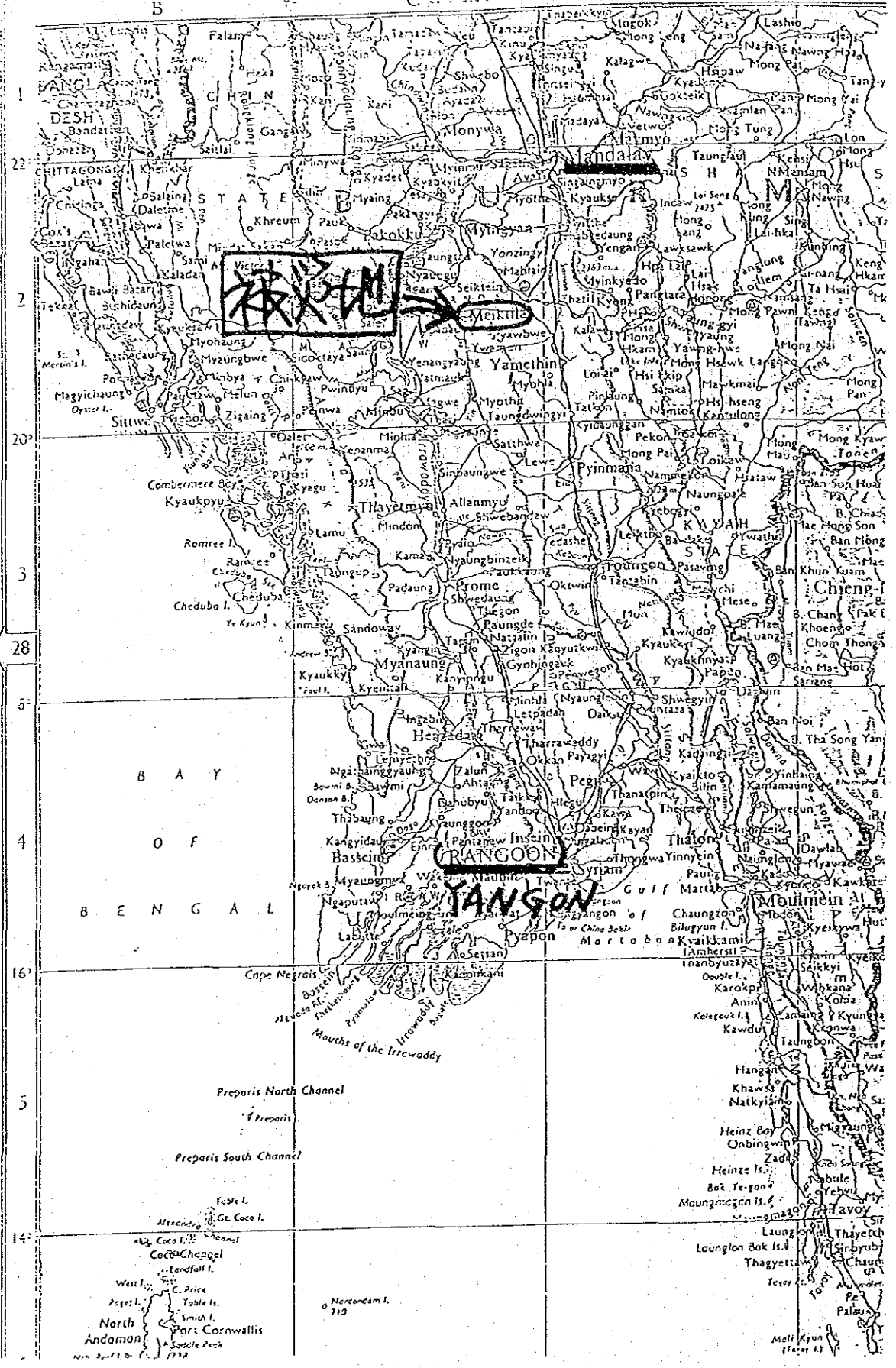
#### 4) 被害状況

- ① 死者：20名
- ② 焼失家屋：5,125戸
- ③ 被災者総数：25,000人
- ④ 被災総額(見積)：5億チャット  
(公定レート 1US\$ = Ks6)

ミャンマー政府への緊急援助物資については、成田備蓄分の現地到着が下記の通り確認された。

#### 記

1. 成田備蓄分（スリーピングマット、ポリタンク、懐中電灯、電池）援助物資は4月30日現地に到着し、ただちにミャンマー外務省において、日本側より川村日本大使、JICA佐野所長及び池田所員出席のもとに引渡し式を実施した。  
なお、同日夕刻引渡し式の模様が国営テレビにて放映され、併せて翌日5月1日付けの国営紙（Working Peoples Daily）にも掲載されました。
2. シンガポール備蓄分（毛布、食器セット、ポリタンク、懐中電灯、石鹼、タオル、洗剤）については現在搬送中ところ、ミャンマー到着次第ご連絡します。



各国および国際機関からの援助状況

U S \$

国連機関および

国際機関	: UN D R O	: 救援資金	20,000
	: U N D P	: 救援資金	50,000
	: E E C	: 救援資金 (L R C S へ)	85,365

各国政府	: 英国	: 薬品を含む救援物資	8,771
	: アメリカ	: 救援資金	10,000
		: 救援資金 (U N D R O へ)	85,600
		: 緊急援助 (ミャンマー赤十字社へ)	20,000
	: オーストラリア	: 救援資金	7,750





(7) サウディ・アラビアペルシャ湾  
原油流出災害



## 派遣の経緯および概要

90年8月イラク軍によるクウェイト国侵攻に端を発した湾岸危機は、その後湾岸戦争に突入し、以来多方面に亙り多大なる被害がもたらされた。

その中でも特筆すべきは、1月下旬のクウェイトより流出した原油でペルシャ湾に深刻な環境汚染を引き起こしていることである。

原油流出発生と同時に各国政府および国際機関よりオイル・フェンス、油回収船等の供与がなされ、専門家チームに依る回収作業協力がなされてきた。

我が国に対しても専門家チーム派遣の要請があり、3月30日より原油回収専門家チーム（計18名）を派遣したが、新たに第2次チームを派遣して欲しいとの要望に基づき、原油回収専門家第2次チームを派遣することとした。

1	国名	サウディ・アラビア国
2	災害区分	ペルシャ湾流出原油防除
3	災害発生時期	1991年3月
4	災害の規模	ペルシャ湾における環境汚染
5	派遣区分	災害専門家チーム、業務調整
6	派遣の目的	①原油流出の応急対策・災害復旧に関する技術的助言 ②防災対策に関する提言
7	派遣期間	4月21日～5月11日
8	チームの構成	専門家チーム（9） （専門家（7）、調整員（2））
9	受入機関	気象環境庁（MEPA）
10	活動の場所	アルジュベール
11	活動の内容	原油回収
12	携行機材	ポンプ等

専門家チーム：

派遣メンバー：団長（1）、専門家（6）、業務調整員（2）

派遣期間：1991年4月21日 ～ 5月11日

	氏名	所属先	指導科目
団長	橋本 工	海上保安庁 警備救難課	総括
団員	上平 明	海上災害防止センター訓練所	原油回収
	片桐 文夫	上野マリンサービス（株）	原油回収
	小松 正博	日本サルヴェージ（株）	原油回収
	幅田 敏夫	出光興産（株）	原油回収
	古川 明	三菱石油（株）	原油回収
	松井 良好	日本石油精製	原油回収
	若林 啓史	外務省 中近東2課 在イラク日本国大使館	業務調整
	三苫 英太郎	国際協力事業団 林業水産開発協力部	業務調整

業務報告書

氏名 三苫 英太郎	担当分野 業務調整	所 属 国際協力事業団 調達部 管理課		
受入機関	サウディ・アラビア国気象環境保護庁 (MEPA)			
派遣機関	平成3年4月27日 ～ 5月17日 (21日間)			
派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容
1	4月27日	土	東京→パリ (AF275)	移動
2	28日	日	パリ→リヤド (AF162 SV528) (アルジュバル) ホリデーインホテル	1) 同上 2) 菊地事務所員との業務 調整引継ぎ
3	29日	月	リヤド (アルジュバル) ホリデーインホテル	1) 現場視察及び現況把握 2) 観堂毎日新聞記者 (ロンドン 支局) の取材を受ける
4	30日	火	同上	1) 原油回収+海岸線洗浄 2) 2団員をカフジのマンガ ローブ林視察に派遣
5	5月1日	水	同上	1) 同上 2) 若林調整員との引継ぎを アルコバルで行う
6	2日	木	同上	1) 同上
7	3日	金	同上	休日・・・一日中強い砂嵐 団員ミーティング (第1回)
8	4日	土	同上	前日の強い砂嵐のため現場 復旧工事
9	5日	日	アルジュバル → ダーラン	1) 原油回収+海岸線洗浄 2) 夕刻、全員ダーランへ 移動
10	6日	月	同上	MEPA職員同行でヘリコ プターに依る上空からの 視察 (ダーラ、ジュバル、クワバ)

派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容
11	7日	火	ダーラン →アルジュベール	1) M E P A に視察結果報告 2) M E P A に供与した機材 のチェック 3) 夕刻アルジュベールへ移動
12	8日	水	同上	1) 原油回収+海岸線洗浄
13	9日	木	同上	1) 同上 2) 団員ミーティング (第2回)
14	10日	金	アルジュベール →リヤド (SV527)	1) 同上 2) VISA延長のため大使館へ 出頭
15	11日	土	リヤド	同上
16	12日	日	同上	休日 自民党環境問題特別委と 会食
17	13日	月	リヤド→ アルジュベール →リヤド	1) 同一行の現場視察 2) 現場一部撤収・整理 (5名帰任3名残留) 3) M E P A 報告 4) リヤドへ移動
18	14日	火	リヤド→チューリヒ SR375 (チューリヒ)	1) 大使館表敬・報告、 J I C A 事務所報告 2) リヤド発
19	15日	水	→チューリヒ	移動・休息
20	16日	木	チューリヒ→東京 SR164 (機中泊)	移動
21	17日	金	→東京	帰任

主な面会者	氏 名 職 位
	1. Dr. NIZAR H. TAWFIQ                      M E P A ・ ・ 副総裁 2. Mr. MAHMOUD NOWAILATY                M E P A ・ ・ 副調整官 3. 田辺 隆一                                      日本大使館 ・ 参事官 4. 藤山 秀章                                      "                      ・ 二等書記官 5. 野口 哲男                                      "                      ・ "                      " 6. 橋爪 吉博                                      "                      ・ "                      " 7. 館野 紀昭                                      J I C A 事務所 ・ 所長 8. 菊地 智徳                                      "                      ・ 所員
活動概要 詳細別紙 1	1) サウディ・アラビア国東岸アルジュベール市北東11Kmの地点で 流失原油が漂着しやすい湾曲した海岸線の、原油回収及び海岸 洗浄作業 2) M E P A、ロイヤルコミッション等との業務調整、連絡及び 取材記者への対応、自民党環境調査団への対応等 3) 撤収計画及びそのための方策についての意見具申
今後の活動 への課題と 検討事項 詳細別紙 2	1) 湾岸戦争がもたらした戦禍に対する環境配慮のため、この緊急 援助がなされた。1990年8月のイラクのクウェート侵攻以来、 自衛隊派遣が国会で議論され、日本の世界の平和に対する貢献 の仕方が問われた。 その中で「人の貢献」が問われたことと、この戦争がらみの 緊急援助は密接な関係があったと思われる。 2) J I C Aの通常の技術協力とこうした特殊な緊急援助の関係に ついて、現地から再三にわたり報告した通りそれらの領域区分 と緊急援助の「限定性」についてより検討を深め、原則を打ち 立てることが重要だと考える。
他機関活動 内容	1) ヴニクテル社（米）、アラムコ社（米）、T C A社（蘭）等は 商業ベースの請負契約により原油の回収作業、マングローブ林 地の洗浄等を大型スプリンクラー、ポンプ等を使用して行って いた。 2) 西ドイツも日本型の緊急援助を実施すべく数名派遣したが、 被害の大きさに驚き早々に非効率と判断し、機材供与のみ実施 し帰国した模様。 3) その他、伝聞したところによれば以下のとおり ①米：沿岸警備隊が原油回収作業の指導に参加。 ②英：日本同様機材供与、専門家を派遣（バハレーン） ③仏：機材供与 ④加、NZ、ルウェー等油防除用機材の送付、専門家派遣

## 活動内容 (別紙 1)

「ベルシヤ湾原油流出防除」国際緊急援助隊第1次チームによって設置されたアルジェベル市の北東11Kmの海岸線に漂着する原油の回収現場において、第2次チームも原油の回収作業を続行し、かつ海岸線を一定区域仕切って洗浄する作業を併せ実施した。(別紙地図参照)

全流出の推定値が当初の1,100万バレルから(1月末日の石油相発言)3月上旬の確認された総量150~200万バレルと変化する中で、我が第2次チームの回収量は微々たるもので洗浄した面積は、全汚染地域からみればピンポイントであったであろう。しかしながら連日高温の中、原油にまみれながら所与のポンプ、スキマー等の機材と人力とにより単純作業を繰り返した。

その間、クウェート国境よりのカフジでのポンプによる原油回収作業に2名の団員を派遣した他、上空より汚染状況を全体として把握すべくMREPAのヘリコプターをチャーターし、延べ約500Kmに及ぶリウイ・アラビア国東岸線を視察した。

また、我がチームの活動状況を取材したり、見学に訪れる新聞記者・マスコミ関係者・自民党環境調査団一行等に対するアサインが主たる活動内容である。

業務調整団員としての主な活動内容は、

1) 第1次チームが帰国し、その後派遣された第2次チームとしては如何にして撤収計画を立てそれを実施するか?

2) 団員の出身母体の違いからくる「緊急援助」に対する認識の不統一を如何にして取り除くか?について団内をとりまとめることになった。

(日常の昼間の作業を終えた後の夜間、東京との交信が)

①「団長——運輸省」

②「石油業界出身団員——通産省」

③「私——JICA、外務省」と3本の主要・連絡ルートがあり、深夜までそれぞれにおいて報告・指示・協議等がなされたという実態があったため外務省、JICA、運輸省の早期撤退派と通産省の5月末までの延長し、かつSWCC(海水淡水化公団)への技術協力への繋ぎ役派に分かれたためである。)



## 今後の活動への課題（問題点と提言）

ページにおいて概略述べたこと、及び ページに言及して以下問題点と提言を述べてみたい。

### 〈派遣までの経緯〉

1. 今回の団員構成は、その目的の性格上外務省・運輸省・通産省であった。より具体的に言えば運輸省は海上保安庁職員。通産省は石油連盟のメンバーたる日本石油・出光興産・三菱石油のメーカー出身者より構成されていた。
2. 1990年夏のイラクのクウェート侵攻後、日本では「人の貢献」が自衛隊の多国籍軍への参加が可能かどうかという点で国会は紛糾した。1991年1月中旬多国籍軍はイラク軍をクウェートから駆逐したが、その際イラク軍のペルシャ湾上のタンカー及び湾岸近くの攻撃により原油が湾内に流出、また、油井には火災を残して退却したとされる。
3. 湾岸戦争直後の世界は、戦後の復興や油井火災の消火やこの湾内の流出原油に如何に対応するかに目が向けられた。
4. 日本政府はクルド人難民への緊急援助の他、この原油流出又クウェートの生態学上の調査等を行ったが、原油流出に関して言えば1991年2～3月ごろには海上保安庁は、東部海岸の汚染地域の復旧には海洋土木工学を駆使しても数億ドル必要と見做し、又通産省は石油連盟からの強い要請でイラン革命、イ・イ戦争中での経験からアラブ諸国に対する日頃からの外交が特に重要だとしてその場しのぎの援助に批判的であったが、この緊急援助にも積極的に取り組んだ。

### 〈湾岸基金への拠出〉

5. 日本国は、合計 130億ドルをこの湾岸戦争に拠出したが、最初の20億ドルはこの湾岸諸国の基金に使った筈である。  
問題は、この拠出金の方途である。アメリカ・オランダは商業ベースで流出原油の回収作業を請け負っており、稼働率もそれなりに高いように思えた。

### 〈人的貢献の難しさ〉

7. 第2次チームは果たして何ができたのか。  
それは第1次チームとともに届いた相当量の供与機材を十分に使いこなして、自ら水田の中に入り稲作指導する伝統的技術協力と同じように、原油にまみれながら砂漠の高温の海岸で毎日汗を流したことに尽きる。  
勿論、その結果を問われれば、一定の制約時間の中では微力であった。

〈今後へ向けての提言〉

8. 第1次チームが相当に苦勞し、現場の設営に終わられて帰国せざるを得なかったこと。又第2次チーム派遣については、かなり詳細な報告があったにもかかわらず運輸省・通産省（とりわけ後者）が2次チームを組織しているという日本国内の現実が優先してしまった。

今後の派遣にあたっては例えば外務省・JICAは「2週間」の期間を絶対譲らないとして各省の都合を排除し、外部の圧力に屈せぬよう再確認すべきこと（注、大使館公電・外務省公信／公電の全てのコピーに目を通した結果断言できることである）がやはり最も重要であると考え。

第2点目は、私自身の反省である。緊急援助隊はその期間だけ一定の目的のために集まり、協力し合って現場にいる訳であるから、即ち非日常性の中に生きているから、日常性つまり出身母体・所属先・取引先とその間何らかの交信が必要となる。

幸か不幸かサウディ・アラビアの電話／ファックス事情は十分に良過ぎたため、各団員はかなりの頻度でページで触れたように各自で東京との連絡を取り合った。しかし、そのことが本省から各団員に別々の指示として「帰国・残留」と分かれたことである。

業務調整員としてもっと工夫する余地が残されていたかもしれない。

つまり、指揮命令権をもつ団長を補佐し、かつ団員に対し「ルール」を作り厳命することである。

〈戦争と緊急援助〉

9. 「治に居て乱を忘れず」というが、緊急援助は他の天災・病気の発生、その他同様戦後処理／復旧に不可欠である。従って、評判の悪かった国会での議論とは独立してやはり行うべきだろう。それは戦後平和を享受し続けてきた結果せい弱になった日本国民一人一人の平和への認識の始まりを意味すると思えるからである。

戸所

原察

1989年4月タイ事務所から帰って3ヶ月目、河口湖畔で「緊急援助隊の合宿訓練」があり、志願していた私はそれに参加した。爾来、援助室から3度程派遣の打診を受けたが、その都度多忙で都合がつかず申し訳ないとして断らざるを得なかった。

今回は、年度末に話が来て4月末からの派遣という。年度当初の業務を課員に相談して早めに処理し、その後ゴールデンウィークに入れば課に対する迷惑も少なからうと判断した。やっとの思いで個人的念願がかない、また援助室への心理的負債もこれで少しは緩和されるかも知れないと期待しつつ。

「問題と提言」には現地で考えたこと、また報告したことを今更のように反すうしながら記述してみたが、これもこうしたチャンスがあってはじめて理解できたことである。

「原油回収」という緊急援助は、それ自体が政治的以上に戦争と直結したその結果に対してであった。従って、通常想定できる「人道的」な援助とはその質を異にしていた。

当初試算されたクウェートの油田火災の消化作業の日数も、想像以上に早く昨秋鎮火した。原油回収もその後相当に進んだものと思われる。

以上

## 国際緊急援助隊（サウディ・アラビア原油回収）JICA分携行資機材一覧表

## 救助チーム生活用資機材分

ケースNo	品名	内容数	
1-A	強力ライト（蛍光灯付き）	2	
	キャンドル用ランタン	2	
	補給用キャンドル	10	
	トランジスターラジオ	1	
	3徳スコップ	1	
	乾電池（単Ⅰ） （単Ⅲ）	10 10	
	石油コンロ	1	
	ポリタン（手付）（5ℓ用） （10ℓ用）	2 2	
	ビニールバケツ（キャンプ用）	4	
	缶切り	1	
	トイレットペーパー（12巻入り）	1	
	乾湿温度計	1	
	ボールペン（黒） （赤） （青）	5 5 5	
	マジック（黒） （赤）	1 1	
	アーミーナイフ	2	
	ろ水器（予備カートリッジ付）	2	
	国旗	1	
	アルマイト食器セット	1	

ケースNo	品名	内容数	
1-B	国旗	1	
1-C	国旗	1	
2-A	コッヘル	2	
	フライパン	1	
	やかん	1	
	まな板セット (木製)	1	
	アルミカップ (耐熱)	12	
	アルマイト食器セット	3	
	プラスチックボール	8	
	割箸	1	
	布たわし	3	
	ふきん	5	
	中性洗剤	1	
	クレンザー	1	
	タオル	5	
	石鹸	9	
粉石鹸	2		
ほうき	1		
3-A	ポリ袋 (大 15 枚入り)	23	
	(中 20 枚入り)	17	
	(小 30 枚入り)	12	
3-C	ポリ袋 (大 15 枚入り)	10	
4	ガムテープ	5	

## 救助チーム活動用資機材分

ケースNo	品名	内容数	
1-B	携帯用無線機（本体、アンテナ（大）、（小）、ストラップ、コード）	1	
	無線機用バッテリー	3	
1-C	携帯用無線機（本体、アンテナ（大）、（小）、ストラップ、コード）	5	
	無線機用バッテリー	20	

## 救助チーム活動用資機材分

ケースNo	品名	内容数	
—	変圧器	2	
	変圧器用コード	2	
	変圧器用プラグセット	2	



## (8) コスタ・リカ地震災害





物資供与の経緯および概要

4月22日午後3時56分（現地時間）リモン県バイエ・デ・ラ・エストーリヤ市付近においてマグニチュード7.4の地震が発生した。震源地は北緯9.6度、東経83.2度。震源地はパナマ国境寄りであり、被害はパナマ国境を含む広範囲におよび、リモン市を中心に死傷者約250人、多数の家屋倒壊等の多大な人的・物的被害がもたらされた。

コスタ・リカ政府よりの要請に基づき、我が国としては係る災害に鑑み人道的見地から緊急援助物資の供与を行う事とした。

1	派遣国	コスタ・リカ共和国
2	災害区分	地震
3	災害発生時期	1991年4月22日
4	災害の規模	死者約50人、負傷者約200人、 全壊家屋約800戸、家屋損壊約1,300戸
5	活動区分	援助物資の供与 発電機、懐中電灯、毛布、簡易水槽、料理、 テント
6	供与時期	1991年4月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	47人	家屋全壊	780戸
負傷者	199人	家屋損壊	1,264戸

(5月7日付UNDRO情報)

4月25日（木）午後5時50分、外務省よりコスタ・リカ国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

## 記

### 1. 外務省及びJICAの対応

1) 被災者救済に必要な緊急性を有する援助物資を「コ」政府の要請に応じ援助する。

総額：1,530万円（含輸送費）

#### ①メキシコ備蓄分

発電機（2.3KVA）	10台
懐中電灯	500ケ
ポリタンク	200ケ

#### ②アメリカ備蓄分

毛布	4,000枚
簡易水槽（3,000ℓ）	30台
グループテント（S）	30張

詳細は別紙のとおり

### 2. 被害状況

#### 1) 人的被害

- ①死者：43名（4月23日午後4時現在）
- ②負傷者：約350名
- ③家屋損失：10,000名

#### 2) 物的被害

- ①鉄道システム及びリモン県（震源地）と他県をつなぐ主要国道、橋梁損壊多数
- ②中、軽度の土砂崩多数
- ③電力サービスの一部切断
- ④電信・電話サービス不通
- ⑤リモン市石油精製所タンクの火災
- ⑥リモン市トニー・ファシオ病院の損壊

#### 3) 全体の被害金額（当面推定額）

20億コロン以上（約1.700万米ドル）

### 3. 諸外国及び国際機関からの援助

- 1) UNDP、USAID、WHO、国際赤十字、国連（ONUCA）が緊急援助を行う用意がある旨表明
- 2) 英国政府は国際緊急援助隊（15名）の派遣決定
- 3) 国連（ONUCA）はヘリコプター3機と応急医療支援要員を提供
- 4) 米国はヘリコプター2機（パナマ駐留）を提供
- 5) ニカラグア空軍よりヘリコプター2機提供

### 4. 必要援助物資

- 1) 毛布
- 2) 救急医療品
- 3) 食糧
- 4) 発電機（5KW、10KW）
- 5) 貯水用器（3,500ℓ）
- 6) テント（3～15人用）
- 7) 強化プラスチック支柱
- 8) 通信機（移動用、ポータブル、中継無線機）
- 9) 水道管清掃機、溶接機、揚水ポンプ、削岩機

コスタ・リカ政府への緊急援助物資については、メキシコ備蓄分、アメリカ備蓄分の現地到着が下記の通り確認された。

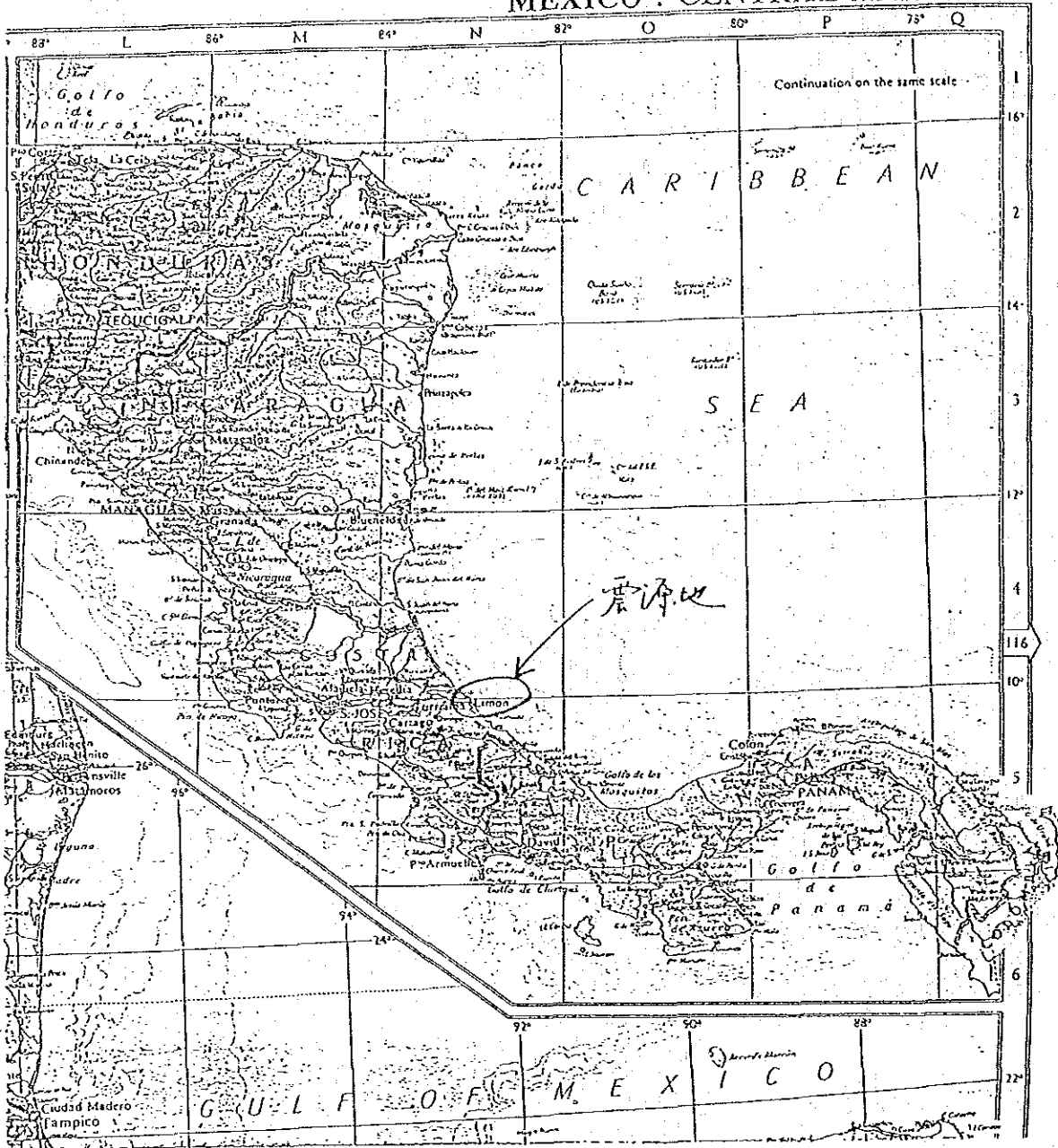
### 記

1. メキシコ備蓄分（発電機、懐中電灯、ポリタンク）  
4月27日 被災地到着
2. アメリカ備蓄分（毛布、簡易水槽、グループテント）  
4月27日 被災地到着

上記両備蓄物資については、4月27日到着後ただちに通関を行い、現地日本大使館員出席のもとに相手国政府に引渡し式を行った。

# MEXICO : CENTRAL AMERICA

Plate  
115



各国及び国際機関からの援助状況		U S \$
国連機関及び		
国際機関	UNDR O	: 救援物資 (発電機、通信機器) 30,000
	WHO / PAHO	: 調査団 . . .
	ONUCA	: ヘルプカー(3) . . .
	EEC	: 救援資金 (NGO 経由パナマへ) 304,878
各国政府		
	アメリカ	: ヘルプカー(3)、技術調査団、 救援資金、C-130 312,785
	カナダ	: 救援資金 43,478
	ドイツ	: 発電機(4)、調査団 . . .
	スイス	: 捜索・救助チーム、捜索権、エンジニアチーム . . .
	フィンランド	: 救援資金 27,681
	ノルウェー	: 救援資金 (Salvation Army 経由) 21,982
	スペイン	: テント(75)、毛布(1,000)、 First Aid Kit(200)他 229,000
	ニカラグア	: ヘルプカー(2) . . .
赤十字		
	カナダ	: 災害援助 2,174
	チェコスロバキア	: 毛布・衣類・工具類 24,653
	フィンランド	: 災害援助 18,750
	ドイツ	: 災害援助 29,586
	ノルウェー	: 災害援助 19,968
	スウェーデン	: 災害援助 16,393
	英国	: 災害援助 4,386
	米国	: 毛布(1,000)、テント(60)、プラスチックシート(105)、 Comfort Kits(7,500)、 調理器具(1,000) 141,364
N G O		
	Care	: 飲料水 . . .
	Catholic Relief Service	: 食料、住宅資材 26,500
	Church World Service	: 救援資金 12,500
	INT/L Rescue Corps (UK)	: 救助チーム . . .
	Operation USA	: 救援資金 25,000
	Pan American Dev. Foundation	: Survival and rescue 資機材 . . .
	Save The Children (USA)	: 救援資金 5,000
	World Vision	: 救援資金 22,129



## (9) パナマ地震災害





物資供与の経緯および概要

4月22日午後3時56分コスタ・リカ東部で発生した地震はパナマ北部（コスタ・リカとの国境添い）Bocas Del Toro、Chiriqui にまで被害を及ぼし、同地区を中心として死傷者約600人、家屋損壊約1,200戸の被害をもたらした。

パナマ政府より我が国への緊急援助要請に対し、我が国としては人道的見地に鑑み緊急援助物資の供与を行うこととした。

1	派遣国	パナマ共和国
2	災害区分	地震
3	災害発生時期	1991年4月22日
4	災害の規模	死者約30人、負傷者約600人、 被災者約18,000人、家屋損壊約1,200戸
5	活動区分	援助物資の供与 医薬品、医療資材、毛布、テント、スリピングマット
6	供与時期	1991年4月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	30人	家屋損壊	1,120戸
負傷者	560人		
被災者	17,500人		
(内家屋喪失	7,000人)		

(4月30日 UNDR0情報)

4月25日（木）午後5時50分、外務省よりパナマ国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省及びJICAの対応

(1) 被災者救済に必要な緊急性を有する援助物資を「パ」政府の要請に応じ援助する。

総額： 992万円（含輸送費）

- ①メキシコ備蓄分  
スリーピングマット 700枚
- ②アメリカ備蓄分  
毛布 3,000枚  
グループテント（S） 20張
- ③UNIPAC（コペンハーゲン）調達分  
医薬品、医療資機材 1セット

2. パナマ被害状況

- (1) 発生日時：1991年4月22日（月）  
16時57分（パナマ時間）
- (2) 被災地：ボカス・デル・トロ県  
チャンギノーラ市、ボカス・デル・トロ市  
アルミランテ市及びグアビート市  
（地図参照）
- (3) 災害規模：マグニチュード7.2
- (4) 死者：30名
- (5) 負傷者：500名
- (6) 家屋倒壊：1,500戸、半壊5,000戸

各国及び国際機関からの援助状況		US \$
国連機関及び		
国際機関	UNDRO : 緊急援助	25,000
	UNICEF : 食料、医薬品、医療資材	25,000
	EEC : 救援資金 (LRCS 経由)	33,171
	"      (MSF/Belgium 経由)	24,390
各国政府		
	: アメリカ : プラスチックシート(100)、毛布(1,000)、水(3,000ガロン)、 浄水剤(1,000 1/2分)	55,000
	救援資金	25,000
	イギリス : 救援資金 (Local Purchase 経由)、救援物資	17,544
	カナダ : 救援資金 (LRCS 経由)	43,478
	医療資材 (PAHO 経由)	26,087
	ベルギー : テント、毛布、発電機、簡易水槽 (MSF 経由)	72,046
	フィンランド : 救援資金 (LRCS 経由)	27,681
	イタリア : UNDR0 経由 発電機(3)、シート(200)、テント(25) Family Kit(141t)、台所用品(150t)、	52,500
	スペイン : テント(50)、毛布(500)、医薬品(1MT)、 First Aid Material (1.34MT)	189,524
	ノルウェー : 救援資金	10,991
	中国 : 救援資金	200,000
各国赤十字		
	: カナダ赤十字 : LRCS へ	2,174
	フィンランド赤十字 : "	18,750
	ドイツ赤十字 : "	29,586
	ルウェー赤十字 : "	19,055
	スウェーデン赤十字 : "	16,393
	英国 : "	4,386
	米国 : "	10,000
その他NGO		
	: Charch World Service : 救援資金	5,000
	World Vision : 救援資金	12,000
	LRCS : 毛布(10,000)、Cooking Set(50)、 テント(100)、First Aid Kit(150)、 担架(50)、Bowls(300)、Cups(300)	113,790



## (10) バングラデシュ・サイクロン災害



派遣の経緯および概要

4月29日深夜から30日未明にかけて、バングラデシュ南東部沿岸地域（同国最大の貿易港地域を含む）を中心に襲ったサイクロンは、最大風速毎時 235kmの同国独立（1971年）以来最大のものであり、5～6メートルの高潮を伴ったサイクロンは同国に多大な人的被害および物的被害をもたらした。

我が国としてはバングラデシュ政府の援助要請に対し、物資の緊急援助を行なったが、同国の輸送手段のみでは被災地への搬送を充分に行えず、再度バングラデシュ政府より、ヘリコプターを伴う大規模の緊急援助隊派遣要請がなされ、同国の実情に鑑み人道的立場より緊急援助を行うこととした。

1	国名	バングラデシュ人民共和国
2	災害区分	サイクロン
3	災害発生時期	1991年4月29日
4	災害の規模	死者約 140,000人、被災者約 1,000,000人
5	派遣区分	救助チーム、業務調整
6	派遣の目的	①被災国側状況調査 ②災害復興計画への参画 ③被災者に対する援助活動 ④援助物資の供与
7	派遣期間	1) 物資供与（供与時期1991年5月） 2) 救助チーム（先発） 5/15 ～ 6/4 〃（後発） 5/17 ～ 6/6
8	チームの構成	救助先発チーム 団長(1)、救助チーム(9)、 調整員(1) 後発チーム 団長(1)、医師(1)、看護婦(1)、 救助チーム(34)、調整員(2)
9	受人期間	ERD
10	活動の場所	ダッカ、チッタゴン
11	活動の内容	物資供与・・医薬品、医療資材、簡易水槽、浄水剤 浄水器、発電機、コードリール 救助チーム・被災者に対する援助活動 被災国側状況調査
12	携行機材	ヘリコプター、他援助物資

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	138,866 人	家屋被害	790,000戸
負傷者	138,866 人	学校被害	9,300
被害地域	75郡	道路被害	500Km
		橋梁被害	496
		土地被害	909,000ha

(5月21日付 UNDR0情報)

援助内容

物資供与：供与時期・・・1991年5月

供与物資・・・医薬品、医療資材、浄水剤、簡易浄水機、簡易水槽、  
簡易水槽、発電機、コードリール

救助チーム：(先発チーム)

派遣期間：5/15 ～ 6/4

(横田団長は5/15～5/23、金山調整員は5/15～6/4 までの任期)

	氏名	所属先	指導科目
団長	横田 淳	外務省 経済協力局 技術協力課	総括
団員	尾崎 研哉	自治省消防庁 救急救助化	救急救助
	大曾根 隆	東京消防庁 警防課	救急救助
	大森 軍司	東京消防庁 航空隊	救急救助
	堀地 成治	東京消防庁 航空隊	救急救助
	岡庭 良三	東京消防庁 航空隊	救急救助
	吉村 公男	大阪市消防局 救急救助課	救急救助
	黒田 友久	大阪市消防局 消防司令課	救急救助
	子安 肇	大阪市消防局 消防司令課	救急救助
	西山 善則	大阪市消防局 消防司令課	救急救助
	金山 史朗	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター	業務調整



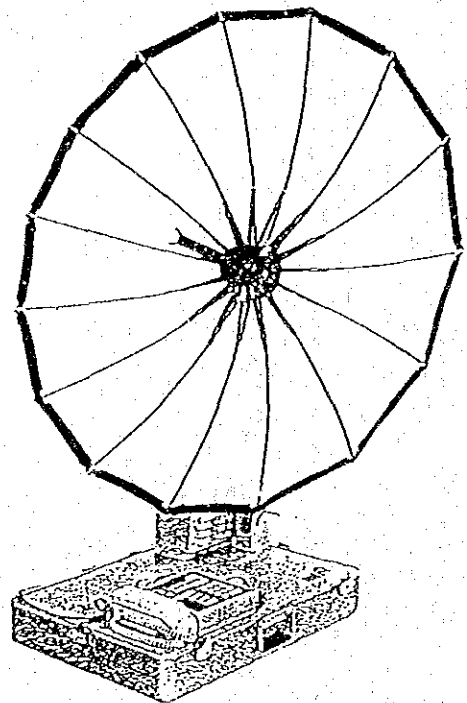
救助チーム：（後発チーム）

派遣期間：5/17～6/6

須永団長は5/24～6/4、柴田、井上、池田、真倉、林の各氏は5/17～6/3  
加藤調整員は5/17～6/6までの任期

	氏名	所属先	指導科目
団長	須永 和雄	外務省 経済協力局 技術協力課	総括
団員	森村 尚登	横浜市立大学病院 救命救急センター	救急医療
	山尾 縁	大阪府立千里救命救急センター	救急医療
	原田 正司	自治省消防庁 国際消防協力官	救急救助
	大島 光次	東京消防庁	救急救助
	勝沼 清	東京消防庁	救急救助
	山崎 正雄	東京消防庁	救急救助
	佐々木 正人	東京消防庁	救急救助
	清水 四郎	東京消防庁	救急救助
	浅野 弘敏	東京消防庁	救急救助
	松丸 廣孝	東京消防庁	救急救助
	金子 雅之	東京消防庁	救急救助
	織田 幸雄	東京消防庁	救急救助
	増田 正司	東京消防庁	救急救助
	長嶋 康夫	東京消防庁	救急救助
	海老澤 徹二郎	東京消防庁	救急救助
	対馬 光範	東京消防庁	救急救助
	小林 英木	川崎市消防局	救急救助
	大末 浩幸	川崎市消防局	救急救助
	橋本 正勝	川崎市消防局	救急救助
	黒田 正己	川崎市消防局	救急救助
瀧本 京作	大阪市消防局	救急救助	
阪本 伸司	大阪市消防局	救急救助	
山野 晃一	大阪市消防局	救急救助	
竹村 健一郎	大阪市消防局	救急救助	
藤田 吉仁	大阪市消防局	救急救助	
辻埜 孝義	大阪市消防局	救急救助	
井上 久徳	大阪市消防局	救急救助	

	氏名	所属先	指導科目
	井上 雅文	神戸市消防局	救急救助
	田中 廣一	神戸市消防局	救急救助
	吉田 一志	神戸市消防局	救急救助
	村上 寛	神戸市消防局	救急救助
	柴田 隆弘	全日空整備株式会社	救急救助
	井上 泰明	全日空整備株式会社	救急救助
	池田 博	全日空整備株式会社	救急救助
	真倉 常夫	全日空整備株式会社	救急救助
	林 市郎	全日空整備株式会社	救急救助
	伊藤 孝義	外務省アジア局南西アジア課	業務調整
	加藤 茂夫	加藤システムサービス	業務調整



各国および国際機関の援助状況		US\$
国連機関および	UNDR0 : 救援物資	50,000
国際機関	UNICEF : 救援資金・Programme Fund	25,000
	Emergency Fund	1,000,000
	UNDP : 救援物資	50,000
	WFP : 食料(7,000MT)	1,500,000
	WHO : Emergency Health Kit(4)	32,000
	救援資金(Local WHOへ)	5,000
	EEC : 救援資金(NGOへ)	2,439,020
	食糧援助(輸送費含む)	9,756,100
	OPEC Fund/Vienna : 救援資金(UNDR0へ)	100,000
各国政府	オーストラリア : 救援資金	213,180
	カナダ : 救援資金(UNDR0へ)	220,000
	デンマーク : 救援資金	50,000
	フランス : 救援資金	86,000
	ドイツ : 救援資金(ドイツ赤十字へ)	147,930
	インド : 緊急援助	700,000
	輸送用ヘリコプター(3)	...
	アイルランド : 救援資金(UNDR0へ)	79,000
	救援資金(Concernへ)	119,000
	オランダ : 救援資金(NGOへ)	1,052,630
	救援資金(LRCSへ)	526,320
	ノルウェー : 救援資金(ノルウェー赤十字へ)	121,900
	救援資金(Norwegian Church AIDへ)	213,400
	パキスタン : Emergency Relief Fund	4,347,830
	輸送用ヘリコプター(2)	...
	サウジアラビア : Relief Assistance	100,000,000
	スウェーデン : 救援資金(CAREへ)	100,000
	スイス : High Protein Food(36MT)、	
	5 Delegates(Communication, Logistics,	
	Health)	344,828
	シート(1,400), Tarpaulin	...
	救援資金、医薬品、食料	137,931
	英国 : 救援資金(UNDR0、ICRC、	
	British High Commissioner、	
	英国NGO経由)	4,333,580
	米国 : 救援資金	25,000
	〃 (NGOへ)	100,000
	医療資材(DOD)、浄水剤	2,014,000
NGO	World Vision : 救援資金	500,000
	Corps Mondial de Secours : 医療チーム、医薬品(800Kg)	...
	CARITAS : 救援資金	422,350
	LRCS : 救援資金	1,394,500
	Assistance in kind	8,300
	Secours Catholique : 救援資金	265,490
	World Council of Churches : 救助チーム、救援物資、ほか	650,000